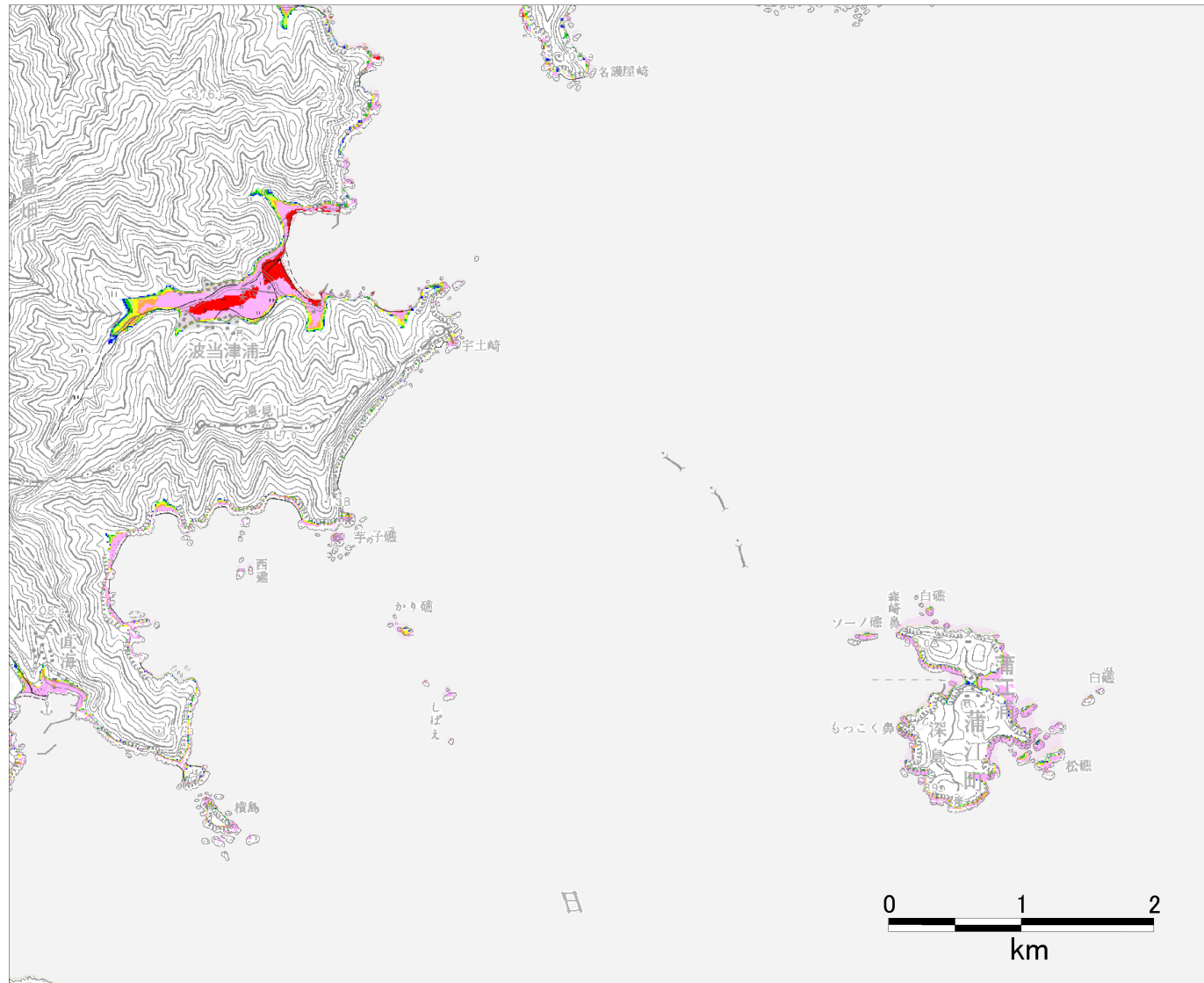


作図範囲:1



大分県 津波による浸水予測図

実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300~400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0~0.005	別府湾を震源とする地震として、1996年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03~4	0.2~10	
周防灘断層群(主軸)		2~4	7~10	—

<想定震源>:南海トラフの地震
<初期潮位>:朔望平均満潮位
<堤防条件>:堤防が機能しない

作図範囲

0 15 30 km

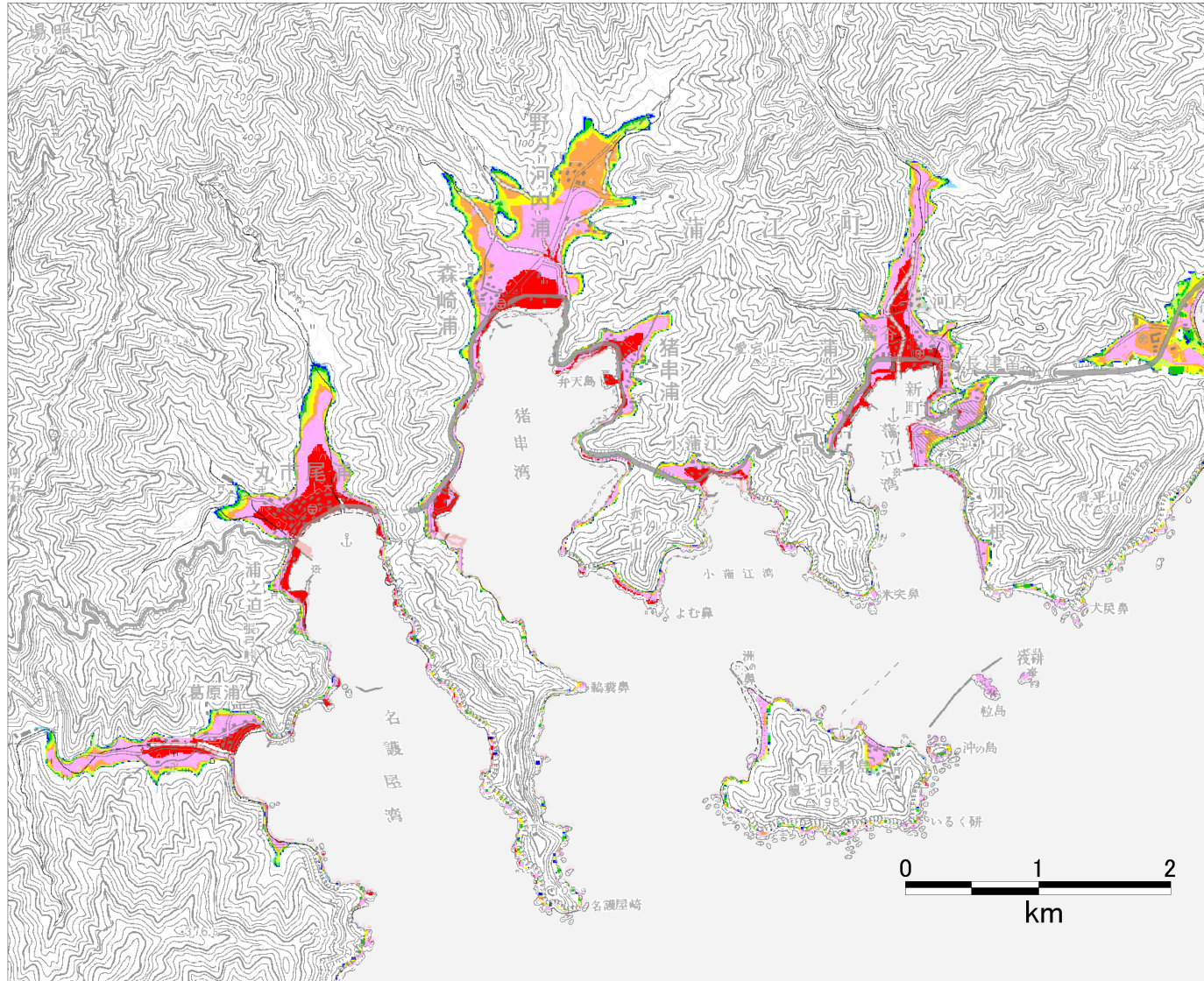
最大浸水深(m)

0m以上 - 0.5m未満	0.5m以上 - 1m未満
1m以上 - 2m未満	2m以上 - 3m未満
3m以上 - 4m未満	4m以上 - 5m未満
5m以上 - 10m未満	10m以上 - 15m未満

0 1 2 km

『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:2



大分県 津波による浸水予測図

実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300~400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

活断層名	発生確率		特記事項
	30年以内	100年以内	
別府湾-日出生断層帯(東部)	ほぼ0	ほぼ0~0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	0.03~4	0.2~10	
間防灘断層群(主部)	2~4	7~10	—

<想定震源>: 南海トラフの地震
<初期潮位>: 朔望平均満潮位
<堤防条件>: 堤防が機能しない

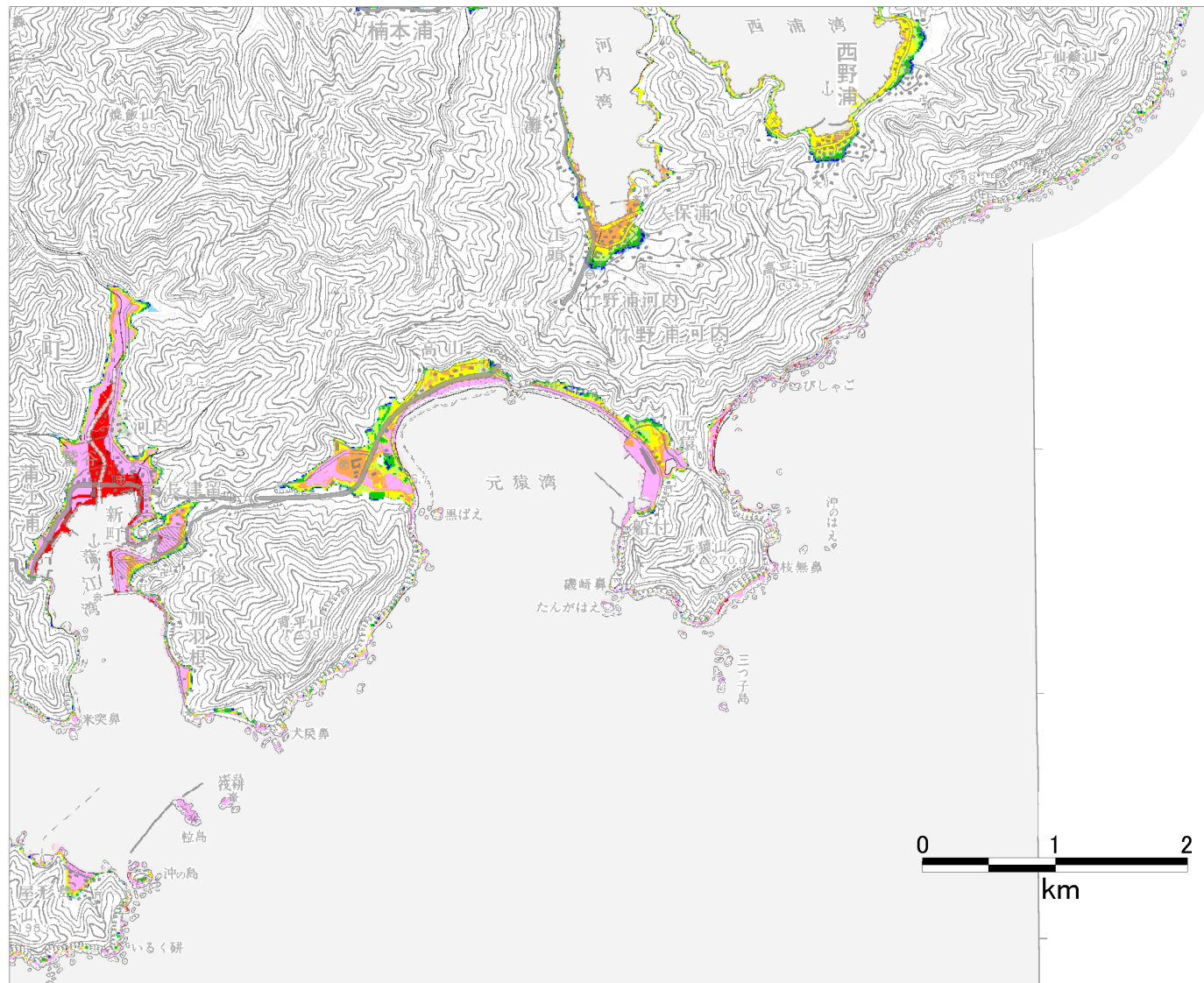
作図範囲

最大浸水深(m)

■	0m以上 - 0.5m未満
■	0.5m以上 - 1m未満
■	1m以上 - 2m未満
■	2m以上 - 3m未満
■	3m以上 - 4m未満
■	4m以上 - 5m未満
■	5m以上 - 10m未満
■	10m以上 - 15m未満

『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:3



大分県 津波による浸水予測図
 実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 ±1.5はそれぞれ以上	大津波を伴う地震が、約300~400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0~0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03~4	0.2~10	
関防断層群(北部)		2~4	7~10	—

<想定震源>: 南海トラフの地震
<初期潮位>: 朔望平均満潮位
<堤防条件>: 堤防が機能しない

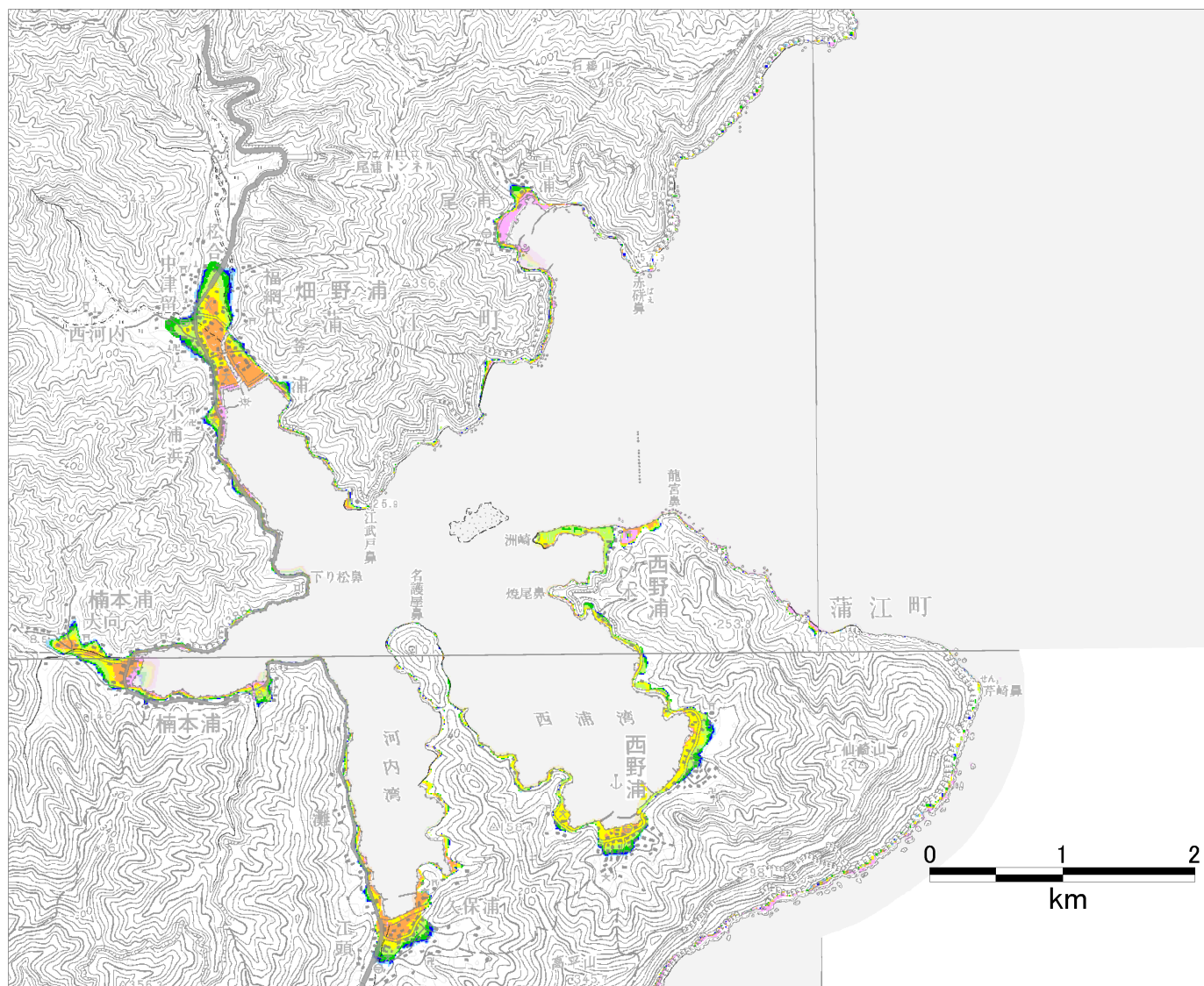
作図範囲

0 15 30 km

最大浸水深(m)	
■	0m以上 - 0.5m未満
■	0.5m以上 - 1m未満
■	1m以上 - 2m未満
■	2m以上 - 3m未満
■	3m以上 - 4m未満
■	4m以上 - 5m未満
■	5m以上 - 10m未満
■	10m以上 - 15m未満

『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:4



大分県 津波による浸水予測図

実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300～400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0～0.005	別府湾を震源とする地震として、1956年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03～4	0.2～10	
周防灘断層群(主部)		2～4	7～10	—

<想定震源>: 南海トラフの地震
<初期潮位>: 朔望平均満潮位
<堤防条件>: 堤防が機能しない

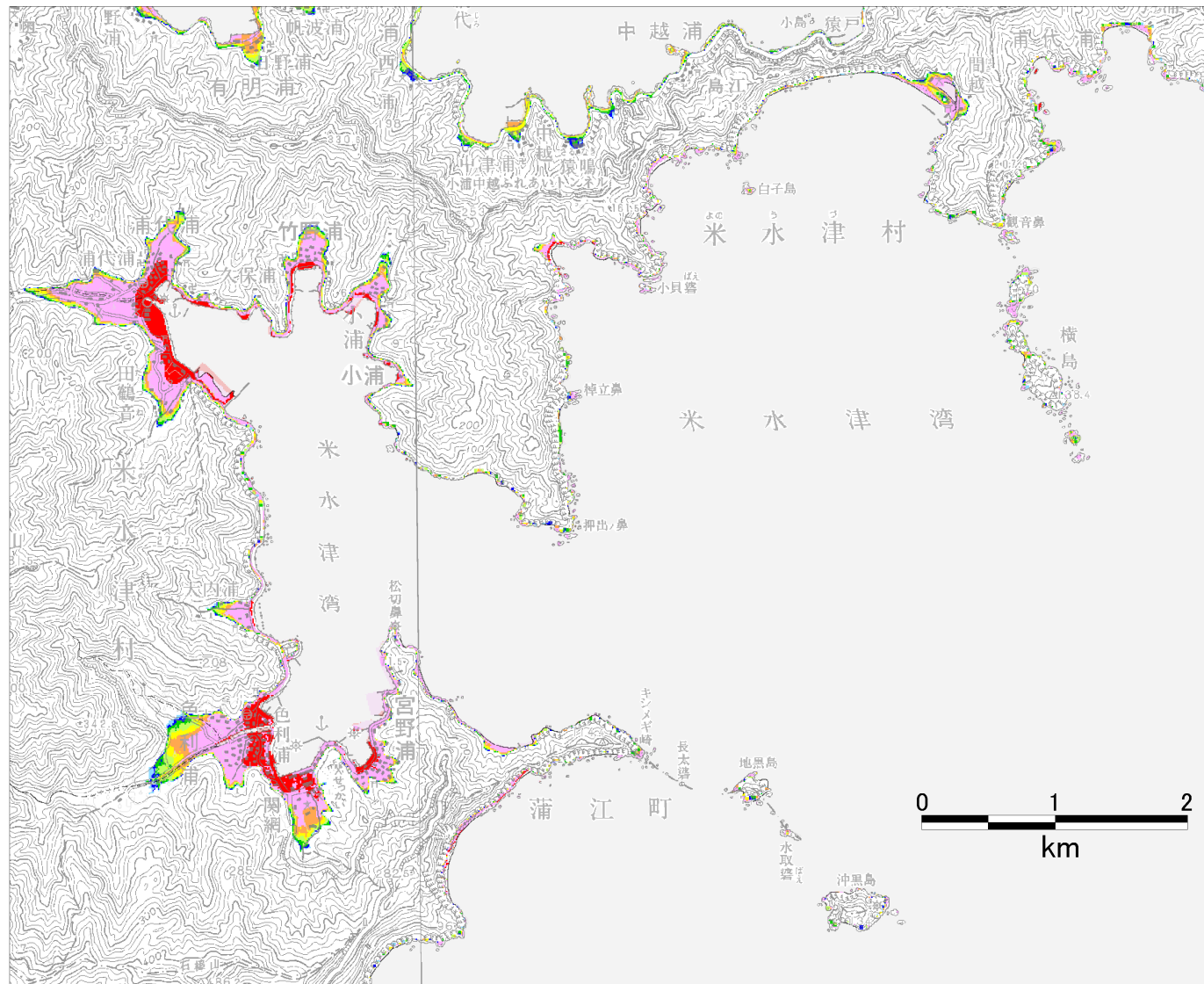
作図範囲

最大浸水深(m)

■	0m以上 - 0.5m未満
■	0.5m以上 - 1m未満
■	1m以上 - 2m未満
■	2m以上 - 3m未満
■	3m以上 - 4m未満
■	4m以上 - 5m未満
■	5m以上 - 10m未満
■	10m以上 - 15m未満

『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:5



大分県 津波による浸水予測図

実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

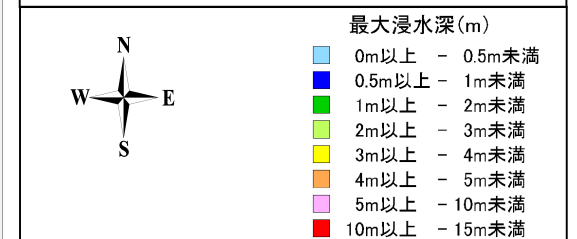
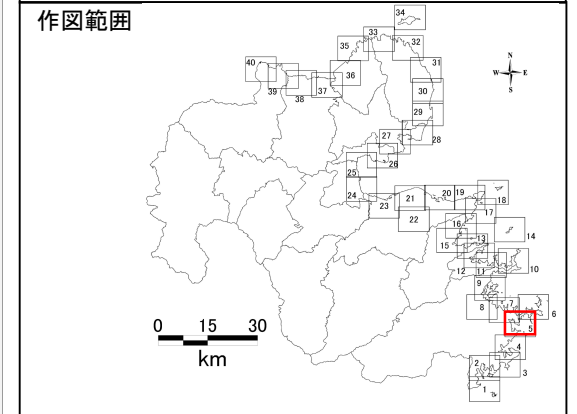
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300~400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

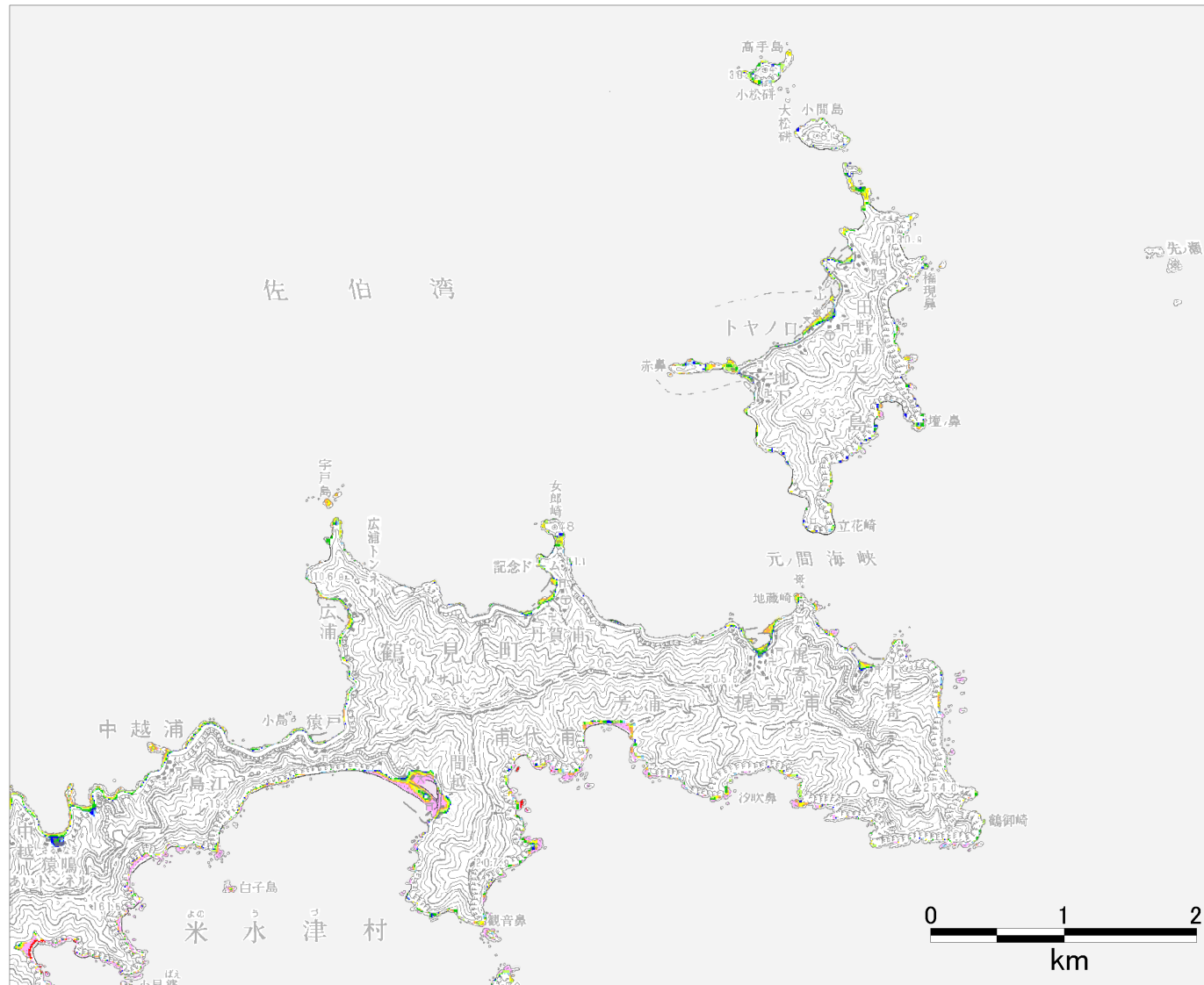
活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0~0.005	別府湾を震源とする地震として、1996年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03~4	0.2~10	
周防灘断層群(主部)		2~4	7~10	—

<想定震源>: 南海トラフの地震
 <初期潮位>: 朔望平均満潮位
 <堤防条件>: 堤防が機能しない



『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:6



大分県 津波による浸水予測図

実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

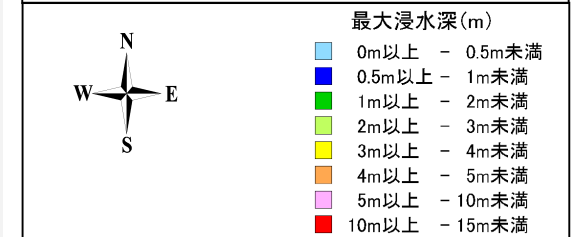
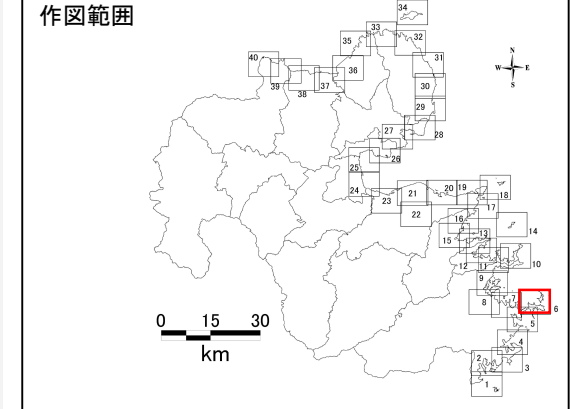
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300～400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

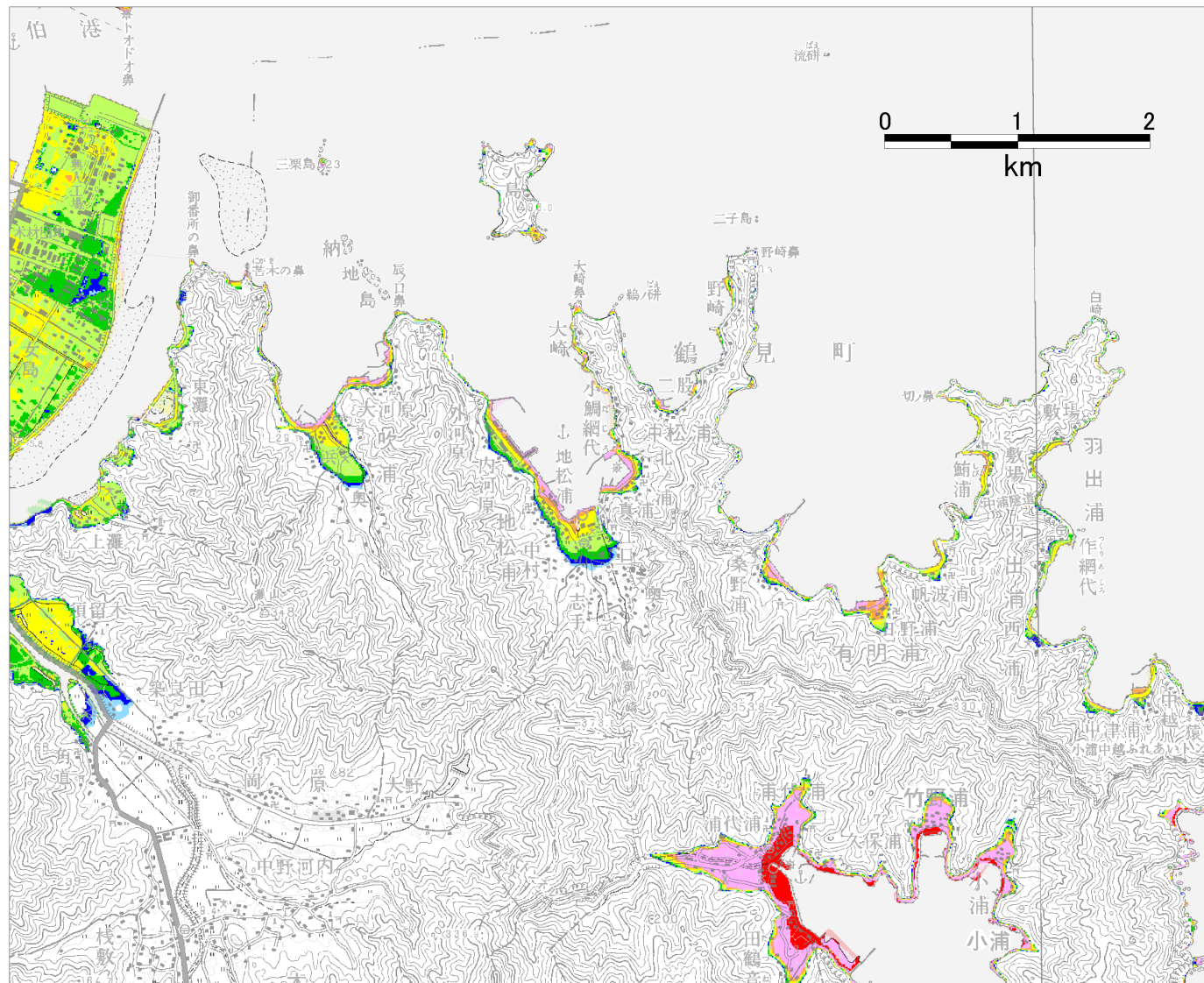
活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0～0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03～4	0.2～10	
周防灘断層群(主部)		2～4	7～10	

<想定震源>: 南海トラフの地震
<初期潮位>: 朔望平均満潮位
<堤防条件>: 堤防が機能しない



『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000（地図画像）を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:7



大分県 津波による浸水予測図
 実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

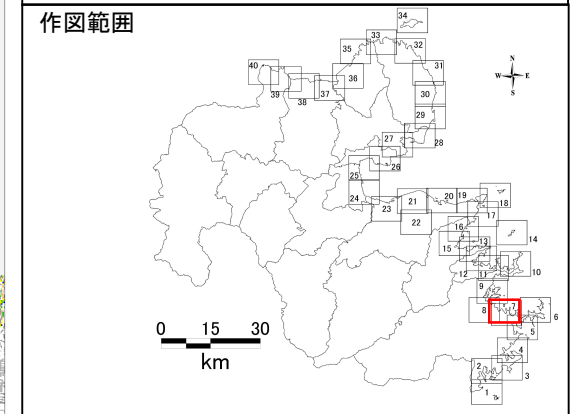
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300~400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0~0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03~4	0.2~10	
周防灘断層群(主部)		2~4	7~10	

<想定震源>: 南海トラフの地震
<初期潮位>: 朔望平均満潮位
<堤防条件>: 堤防が機能しない

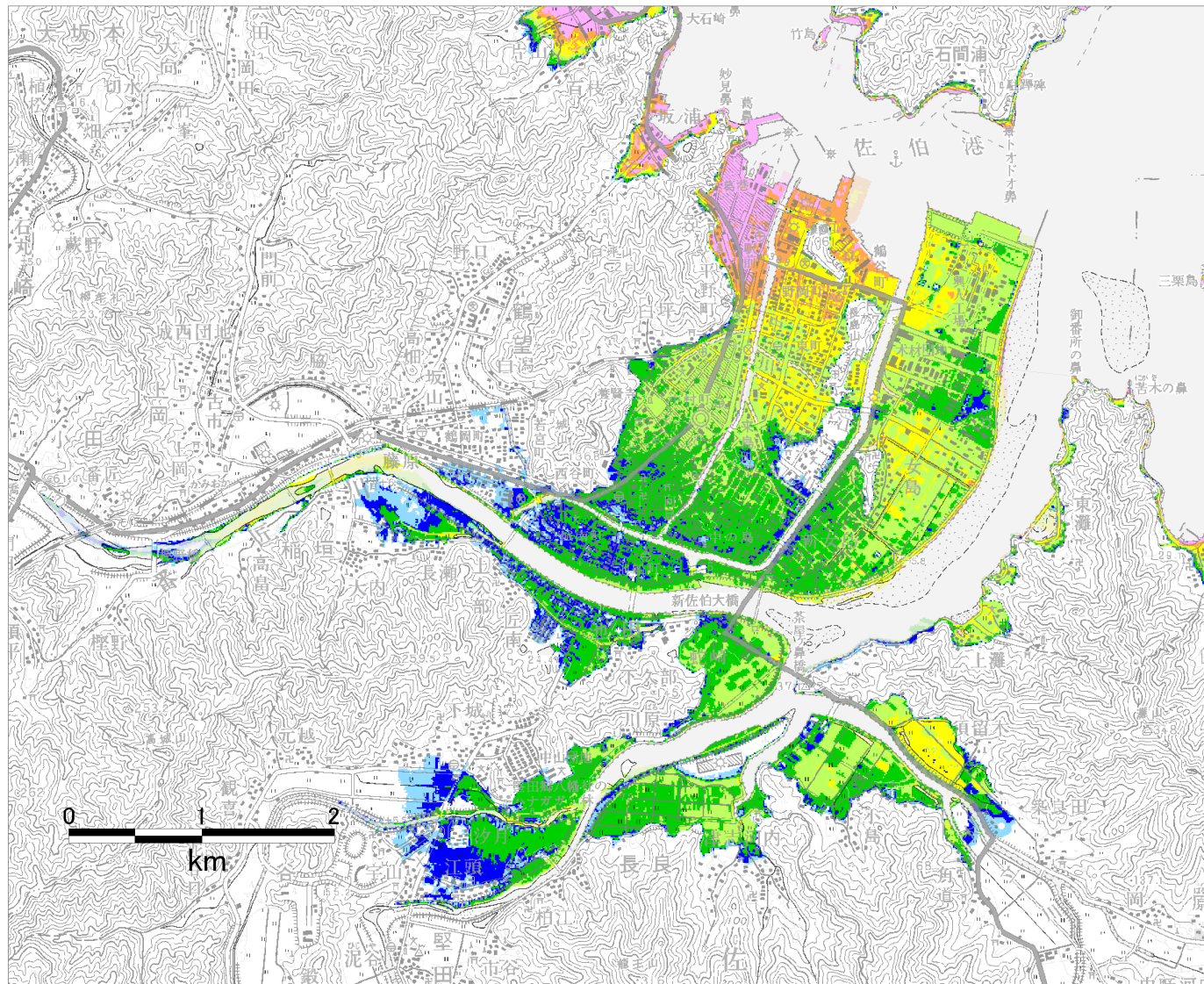


最大浸水深(m)

0m以上	0.5m未満
0.5m以上	1m未満
1m以上	2m未満
2m以上	3m未満
3m以上	4m未満
4m以上	5m未満
5m以上	10m未満
10m以上	15m未満

『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:8



大分県 津波による浸水予測図

実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

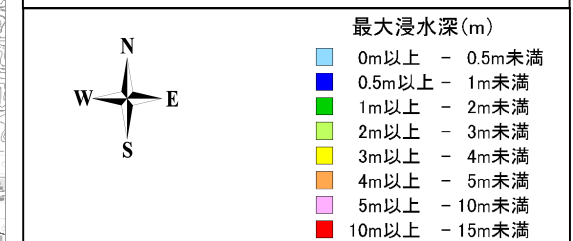
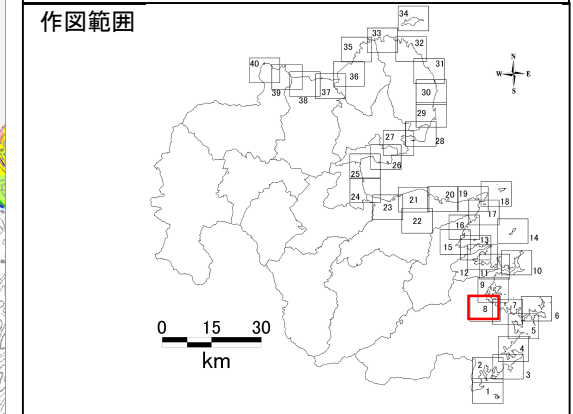
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300~400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

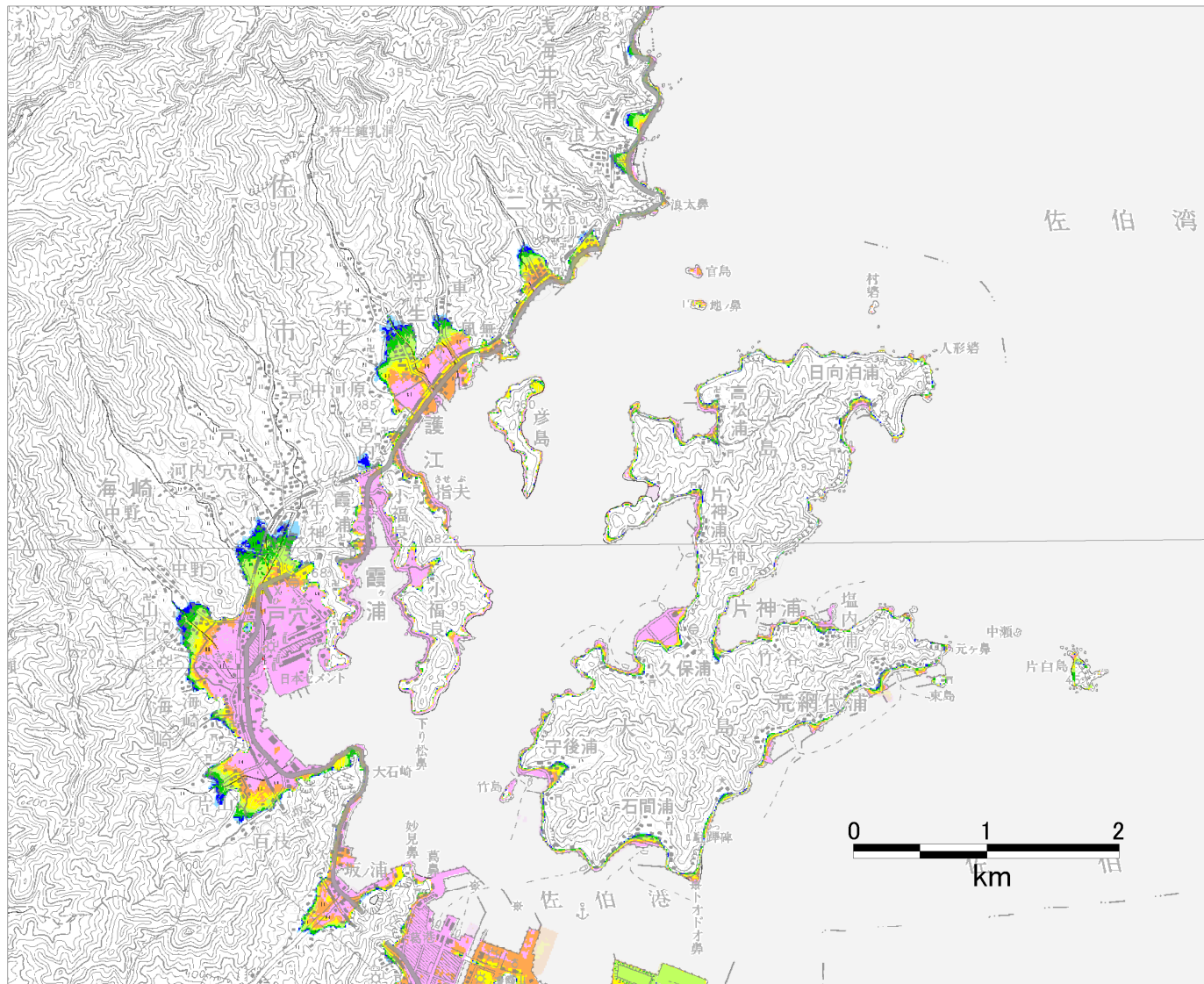
活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0~0.005	別府湾を震源とする地震として、1566年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03~4	0.2~10	
周防灘断層群(主部)		2~4	7~10	

- <想定震源>:南海トラフの地震
- <初期潮位>:朔望平均満潮位
- <堤防条件>:堤防が機能しない



『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:9



大分県 津波による浸水予測図

実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

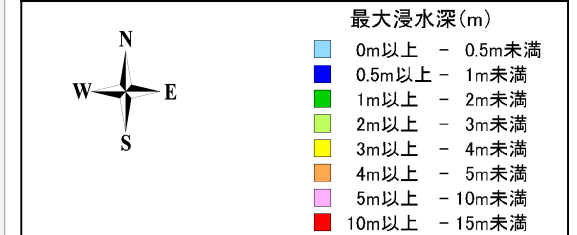
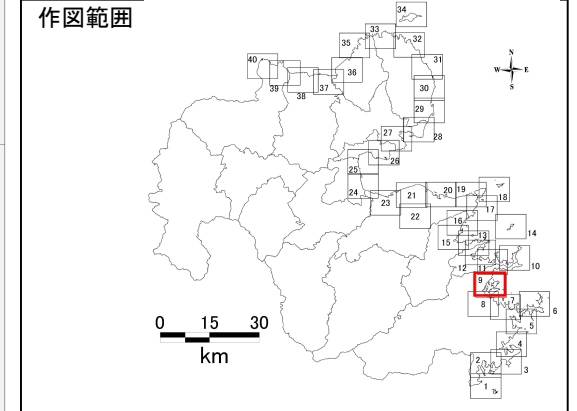
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300~400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

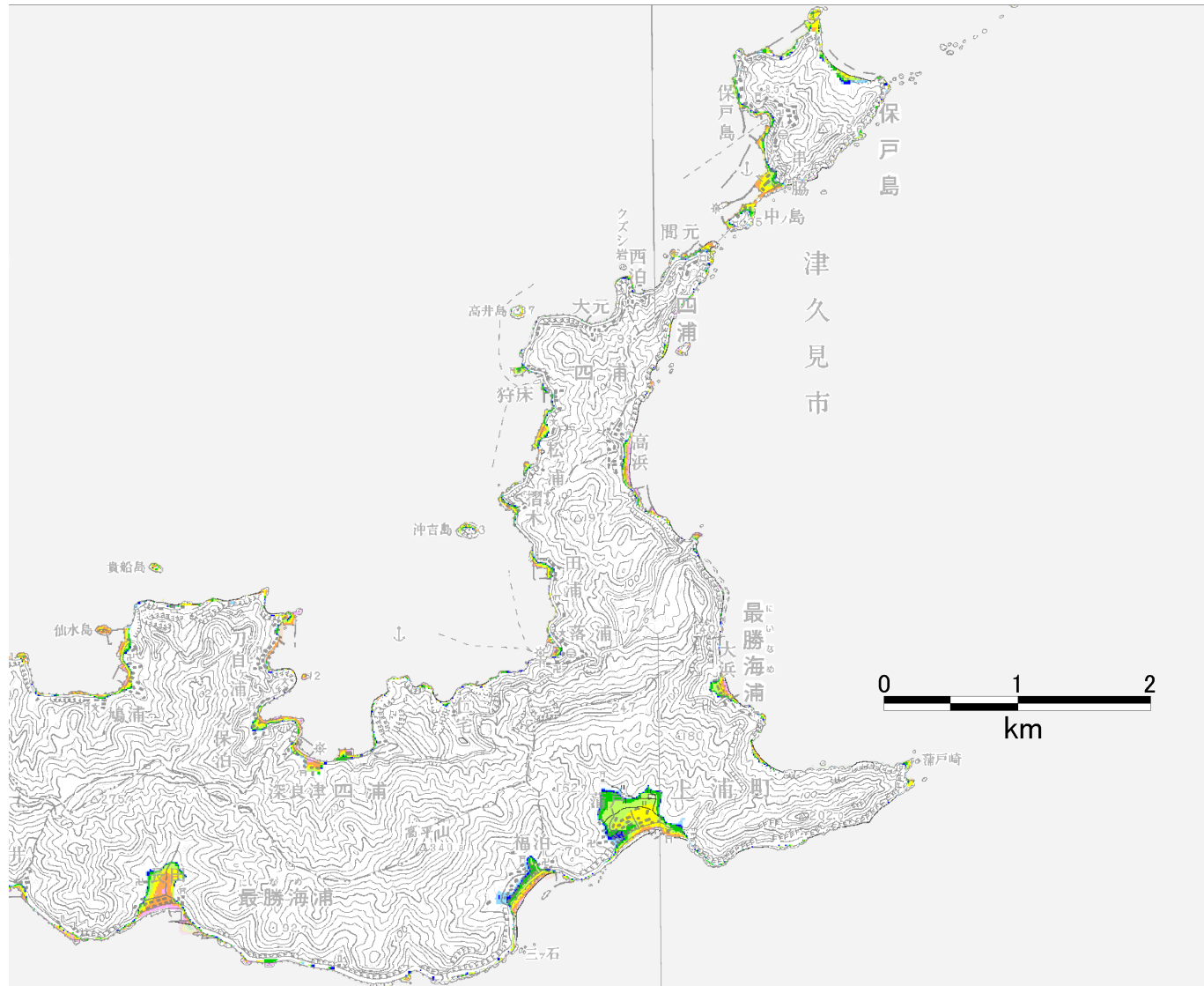
活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0~0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03~4	0.2~10	
扇形断層群(主部)		2~4	7~10	

<想定震源>: 南海トラフの地震
 <初期潮位>: 朔望平均満潮位
 <堤防条件>: 堤防が機能しない



『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:10



大分県 津波による浸水予測図

実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

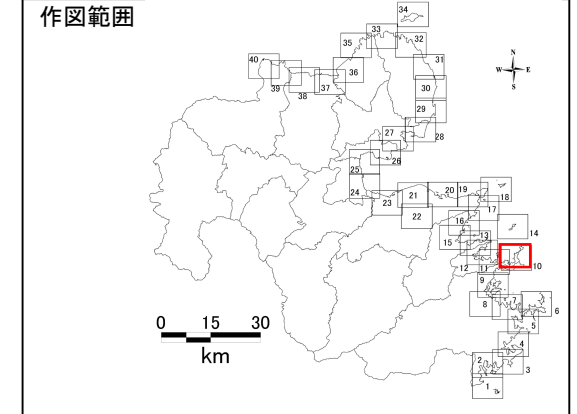
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300~400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0~0.005	別府湾を震源とする地震として、1996年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03~4	0.2~10	
周防灘断層群(主部)		2~4	7~10	-

<想定震源>:南海トラフの地震
 <初期潮位>:朔望平均満潮位
 <堤防条件>:堤防が機能しない

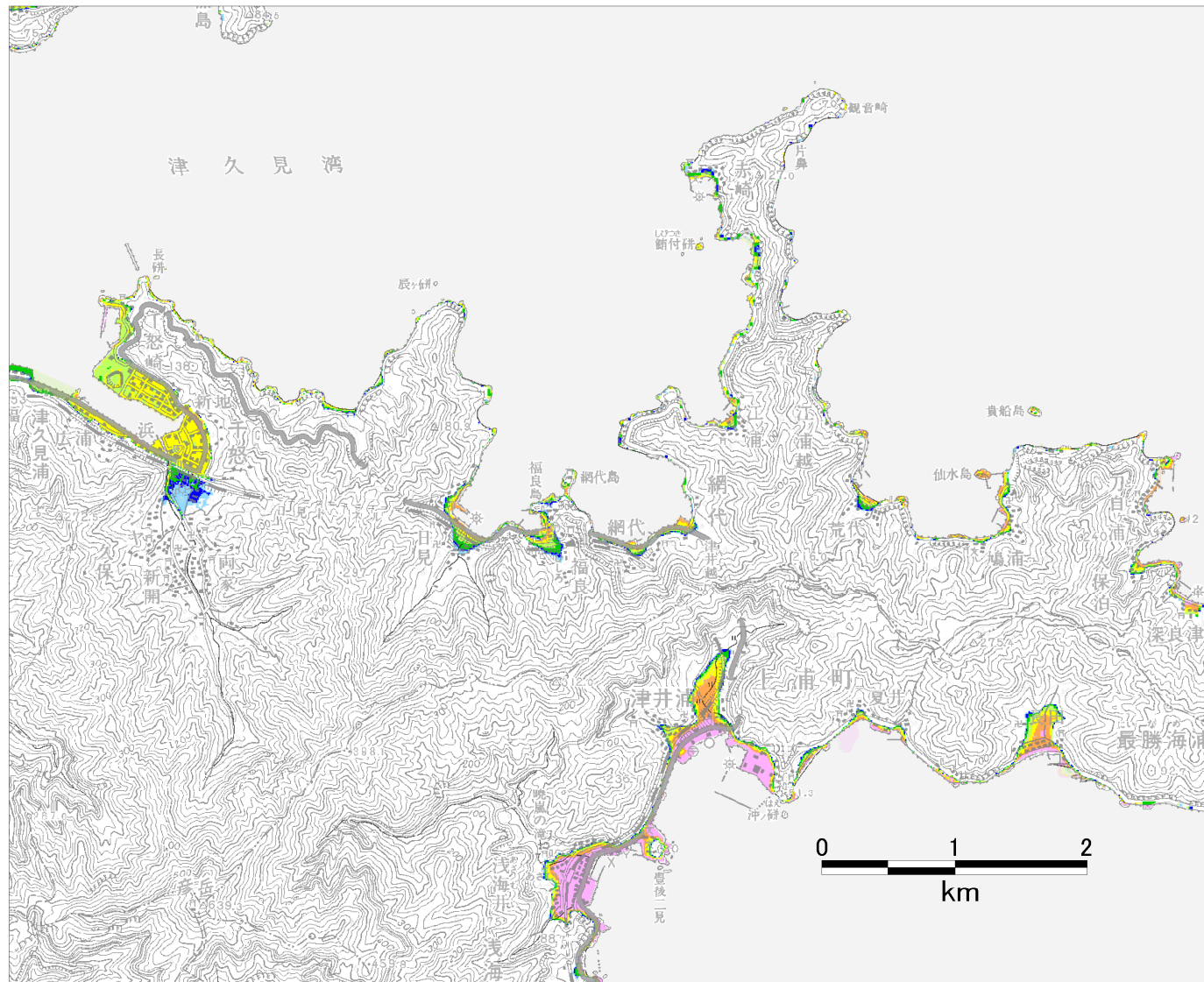


最大浸水深(m)

0m以上	- 0.5m未満
0.5m以上	- 1m未満
1m以上	- 2m未満
2m以上	- 3m未満
3m以上	- 4m未満
4m以上	- 5m未満
5m以上	- 10m未満
10m以上	- 15m未満

『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:11



大分県 津波による浸水予測図
 実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

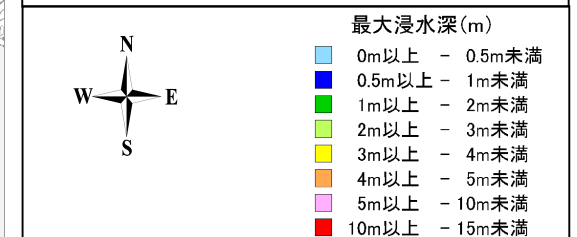
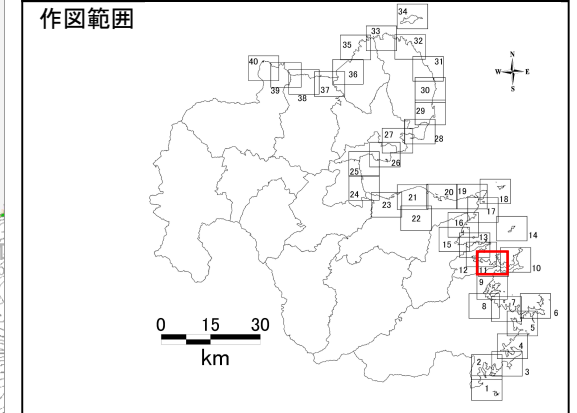
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300～400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

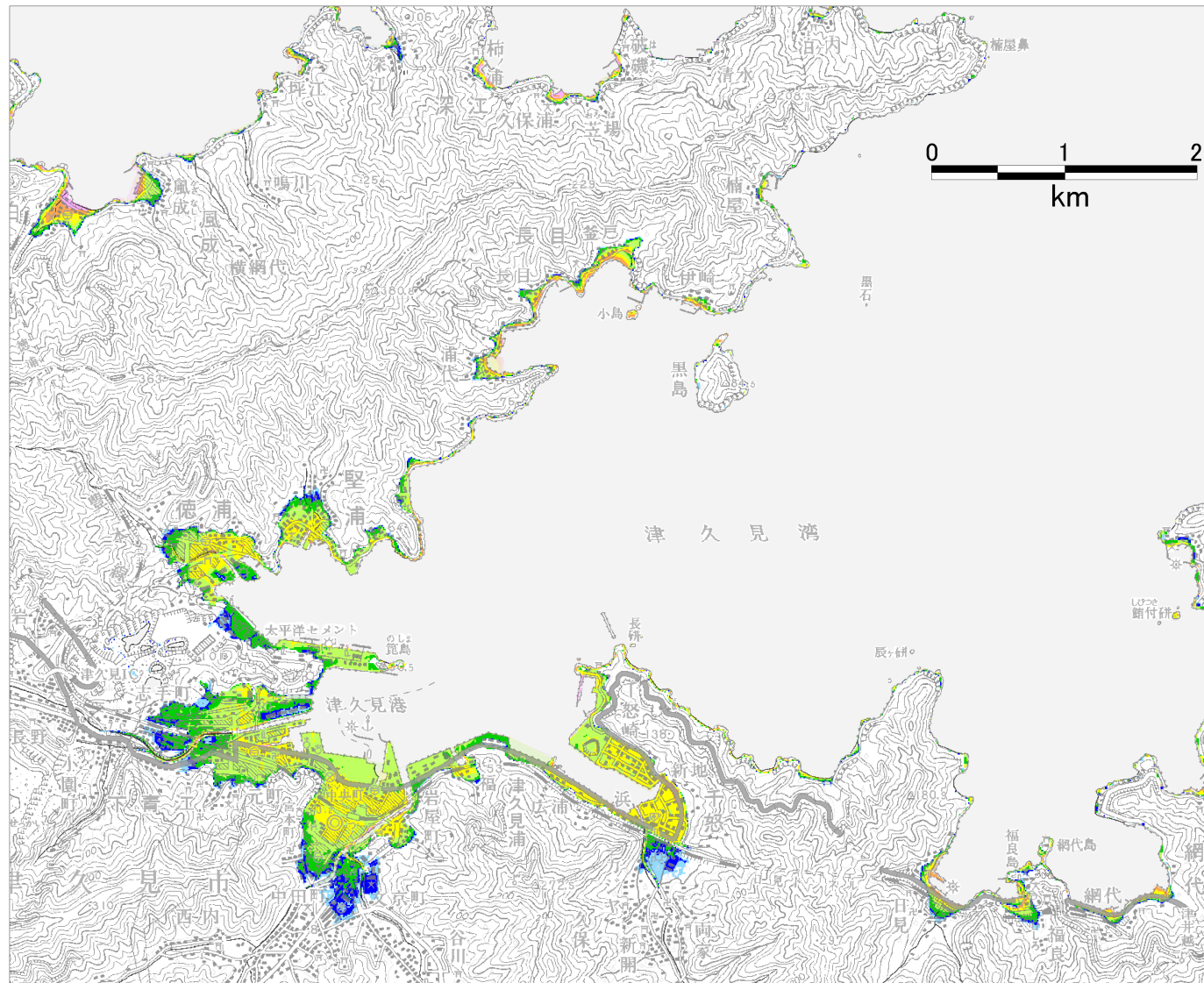
活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0~0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03~4	0.2~10	
周防灘断層群(主部)		2~4	7~10	

<想定震源>:南海トラフの地震
<初期潮位>:朔望平均満潮位
<堤防条件>:堤防が機能しない



『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:12



大分県 津波による浸水予測図

実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

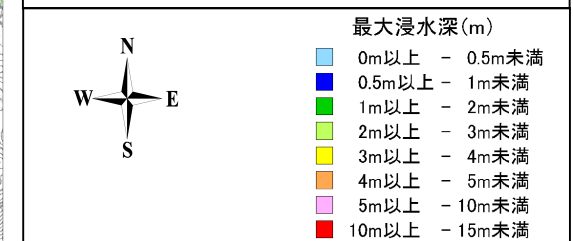
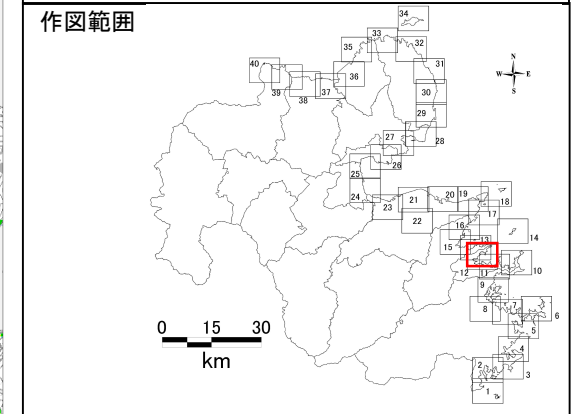
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300～400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

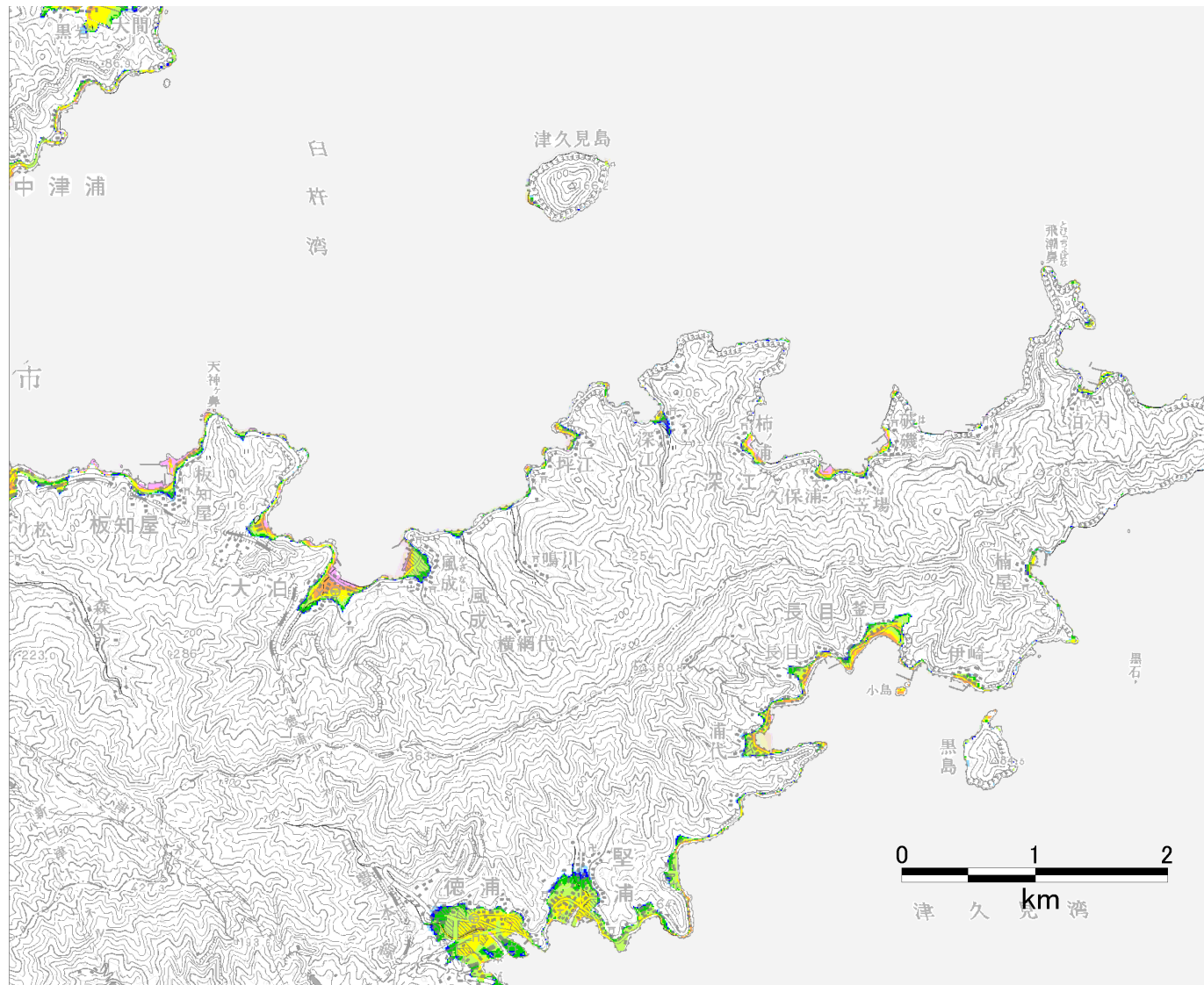
活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0～0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03～4	0.2～10	
周防灘断層群(主部)		2～4	7～10	—

- <想定震源>: 南海トラフの地震
- <初期潮位>: 朔望平均満潮位
- <堤防条件>: 堤防が機能しない



『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:13



大分県 津波による浸水予測図

実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

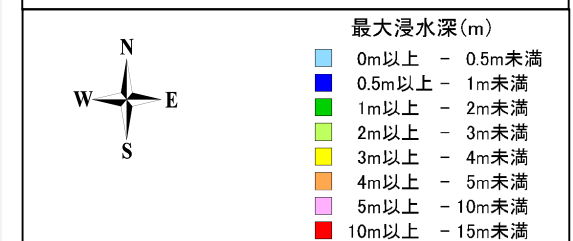
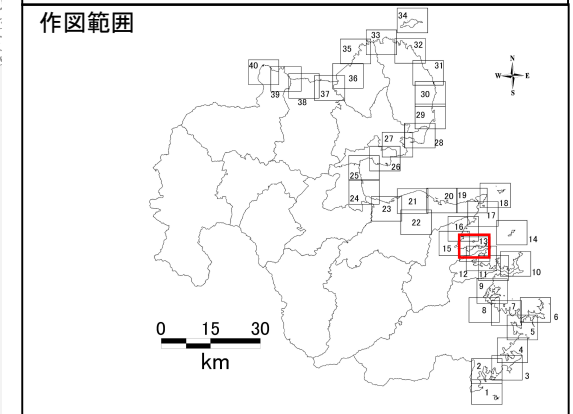
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300～400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0～0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03～4	0.2～10	
周防灘断層群(主節)		2～4	7～10	—

<想定震源>:南海トラフの地震
 <初期潮位>:朔望平均満潮位
 <堤防条件>:堤防が機能しない



『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲: 14

大分県 津波による浸水予測図

実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	90%程度	
東南海地震	70%程度	ましくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300～400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0～0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03～4	0.2～10	
周防灘断層群(主部)		2～4	7～10	—

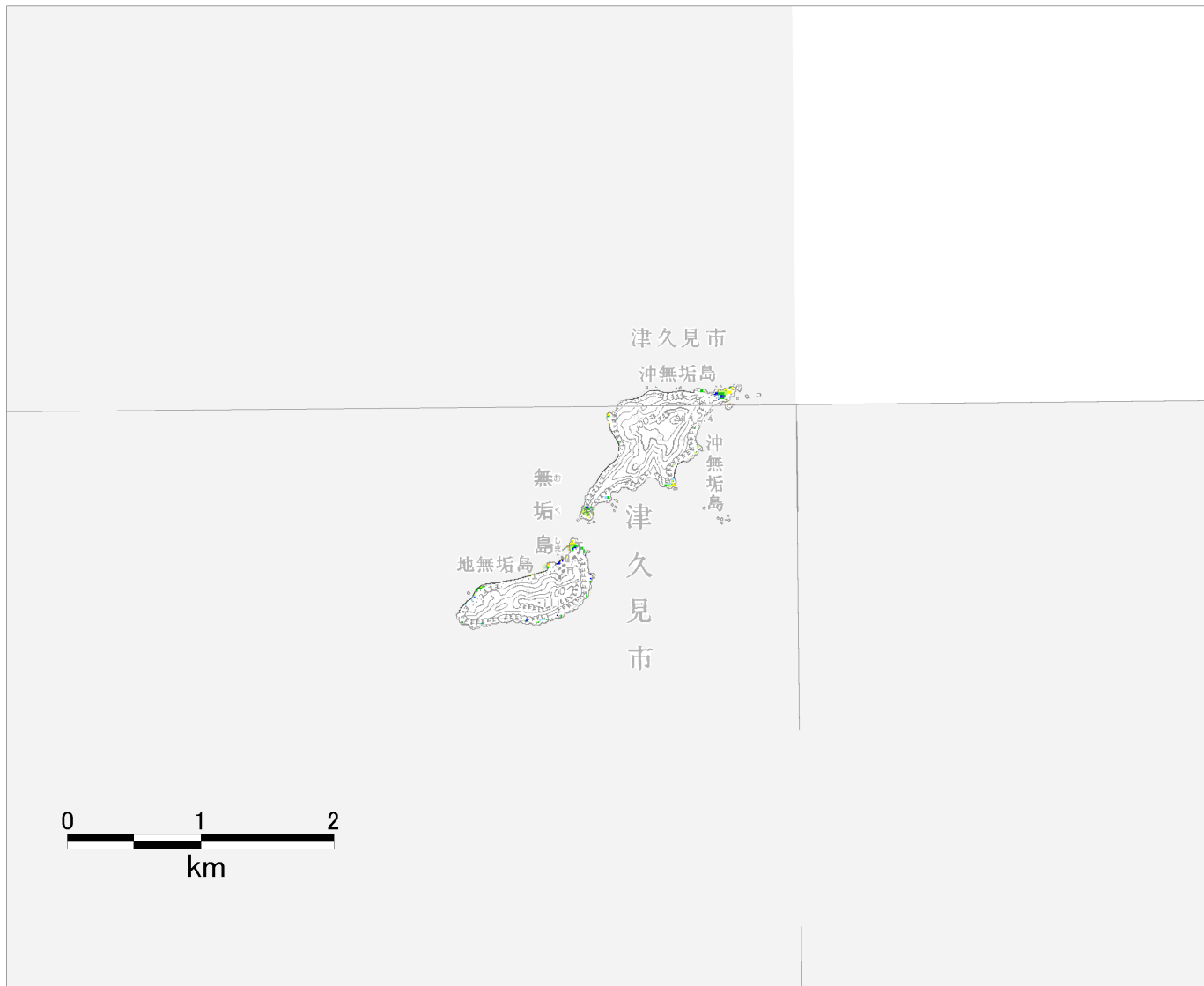
<想定震源>: 南海トラフの地震
<初期潮位>: 朔望平均満潮位
<堤防条件>: 堤防が機能しない

作図範囲

0 15 30 km

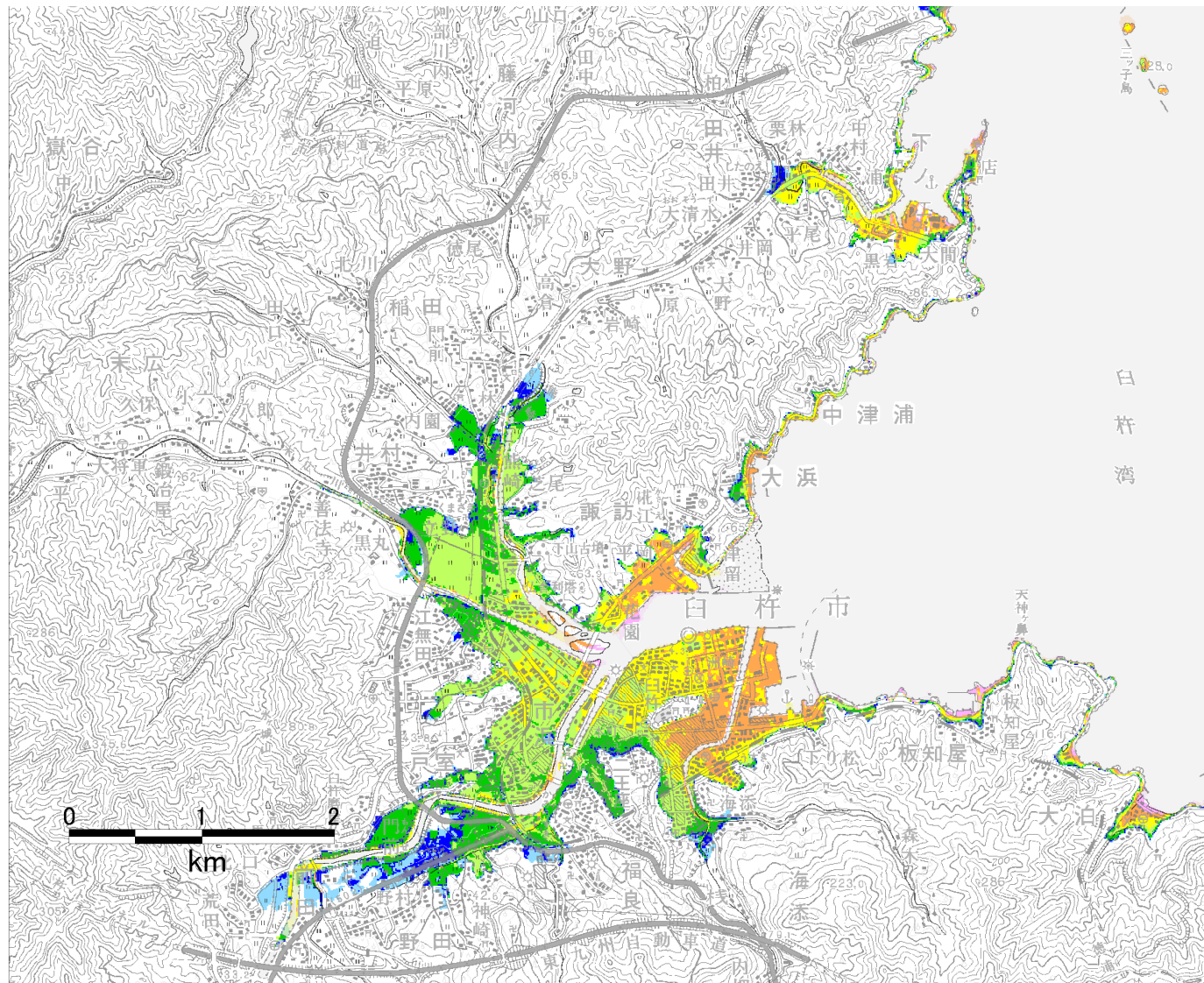
最大浸水深(m)

0m以上	0.5m未満
0.5m以上	1m未満
1m以上	2m未満
2m以上	3m未満
3m以上	4m未満
4m以上	5m未満
5m以上	10m未満
10m以上	15m未満



『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:15



大分県 津波による浸水予測図

実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300~400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0~0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03~4	0.2~10	
周防灘断層群(主部)		2~4	7~10	

<想定震源>: 南海トラフの地震
<初期潮位>: 朔望平均満潮位
<堤防条件>: 堤防が機能しない

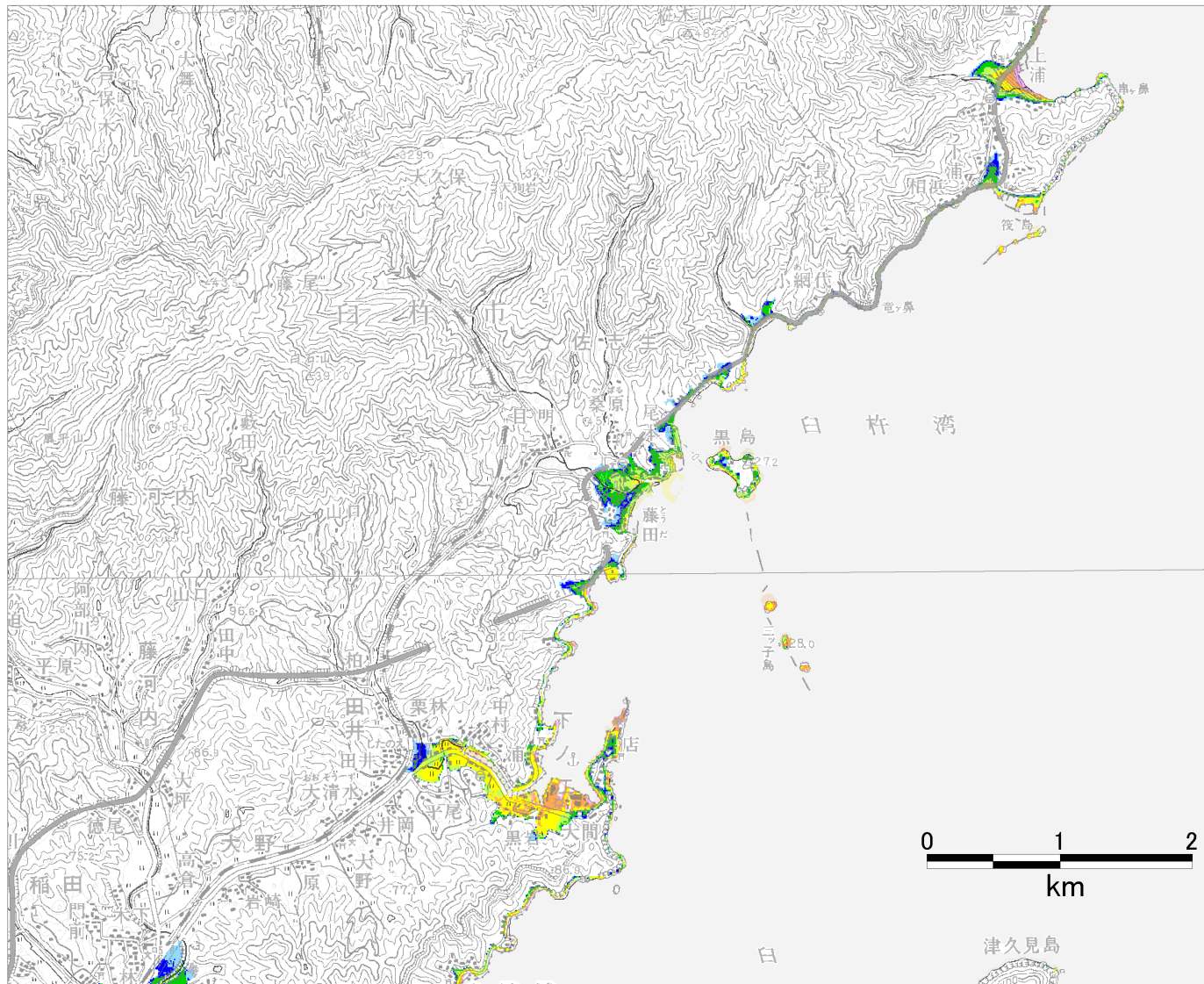
作図範囲

最大浸水深(m)

0m以上	- 0.5m未満
0.5m以上	- 1m未満
1m以上	- 2m未満
2m以上	- 3m未満
3m以上	- 4m未満
4m以上	- 5m未満
5m以上	- 10m未満
10m以上	- 15m未満

『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:16



大分県 津波による浸水予測図

実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

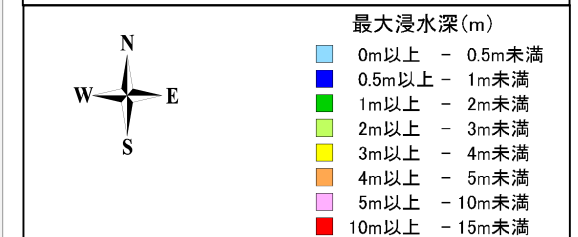
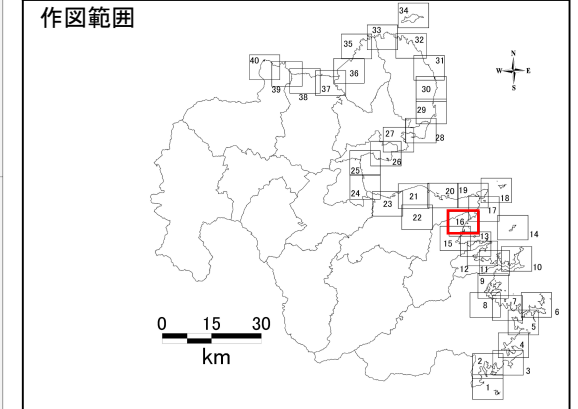
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	90%程度	
東南海地震	70%程度	もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300～400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

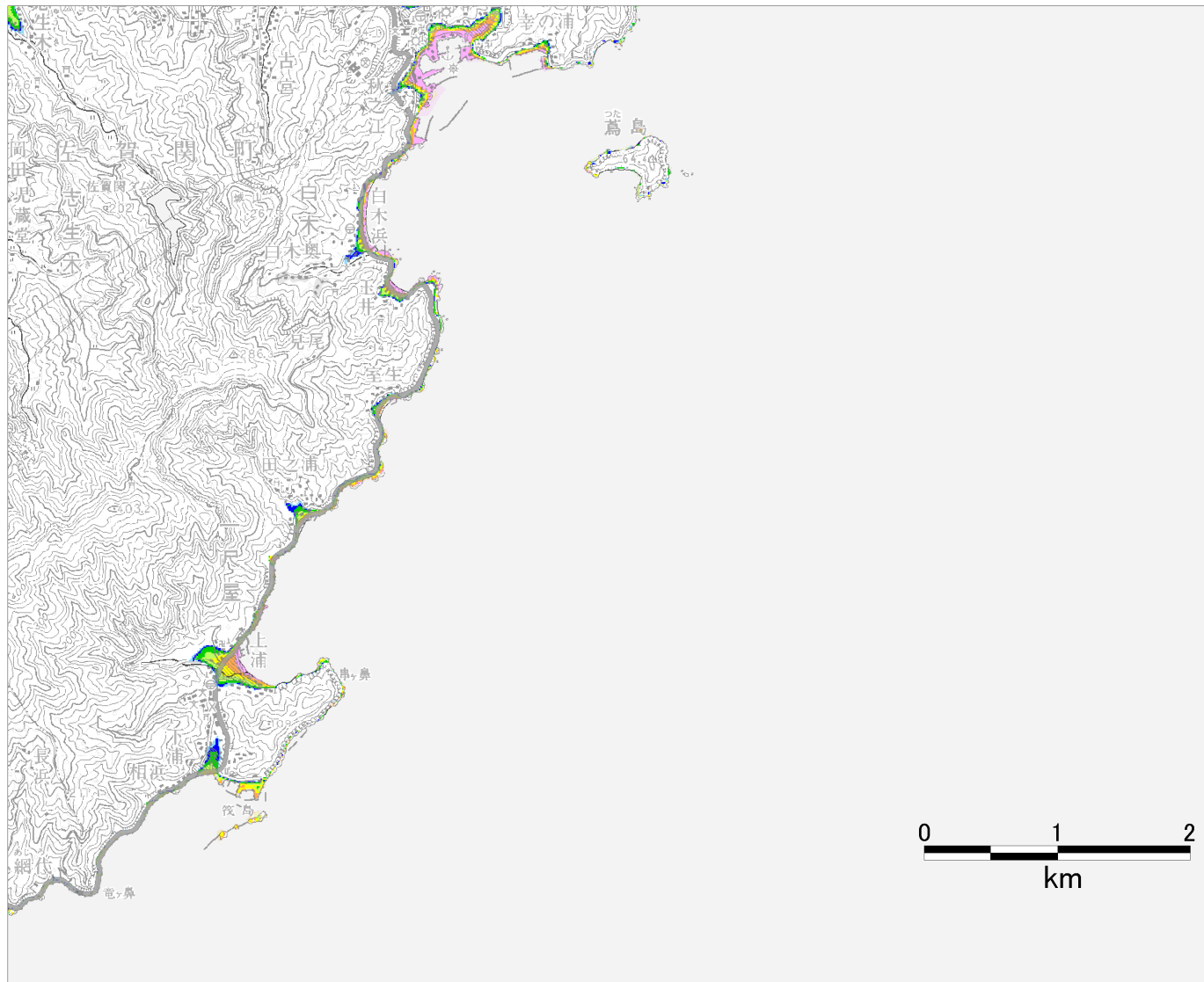
活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0～0.005	別府湾を震源とする地震として、1956年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03～4	0.2～10	
周防灘断層群(主部)		2～4	7～10	—

<想定震源>:南海トラフの地震
 <初期潮位>:朔望平均満潮位
 <堤防条件>:堤防が機能しない



『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:17



大分県 津波による浸水予測図

実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300~400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0~0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03~4	0.2~10	
開防瀬断層群(主部)		2~4	7~10	-

<想定震源>:南海トラフの地震
<初期潮位>:朔望平均満潮位
<堤防条件>:堤防が機能しない

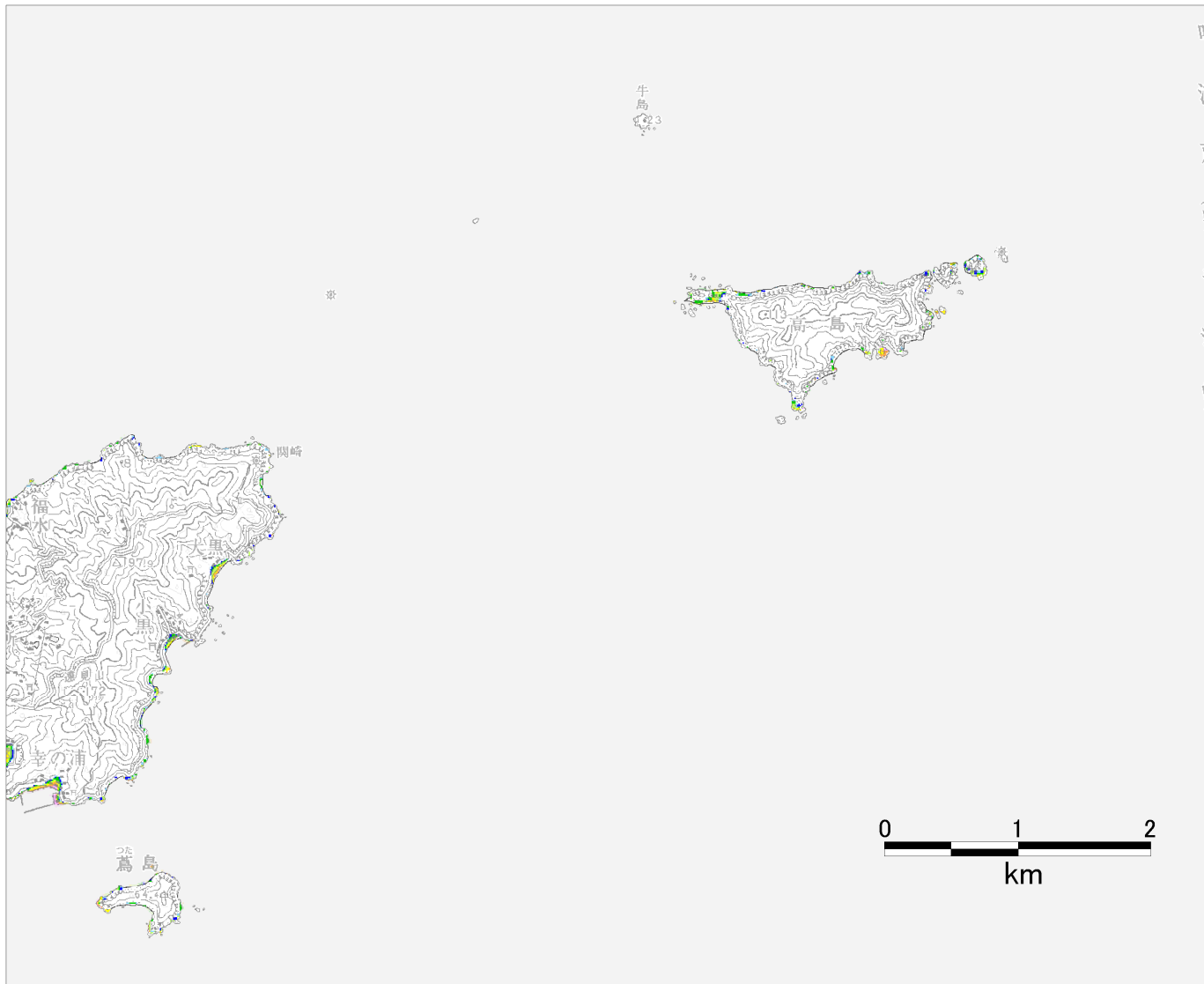
作図範囲

最大浸水深(m)

0m以上	- 0.5m未満
0.5m以上	- 1m未満
1m以上	- 2m未満
2m以上	- 3m未満
3m以上	- 4m未満
4m以上	- 5m未満
5m以上	- 10m未満
10m以上	- 15m未満

『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:18



大分県 津波による浸水予測図

実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

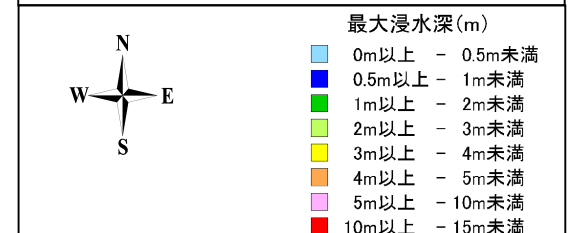
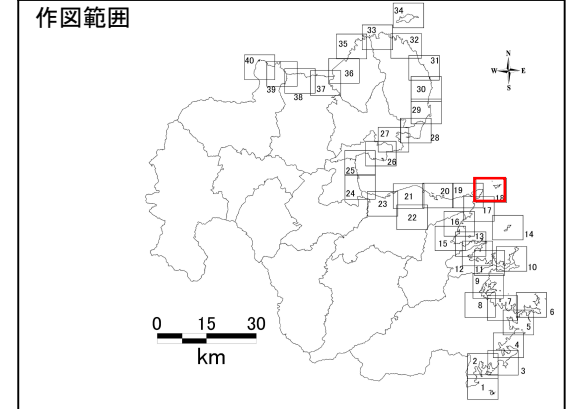
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	90%程度 もしくはそれ以上	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300～400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

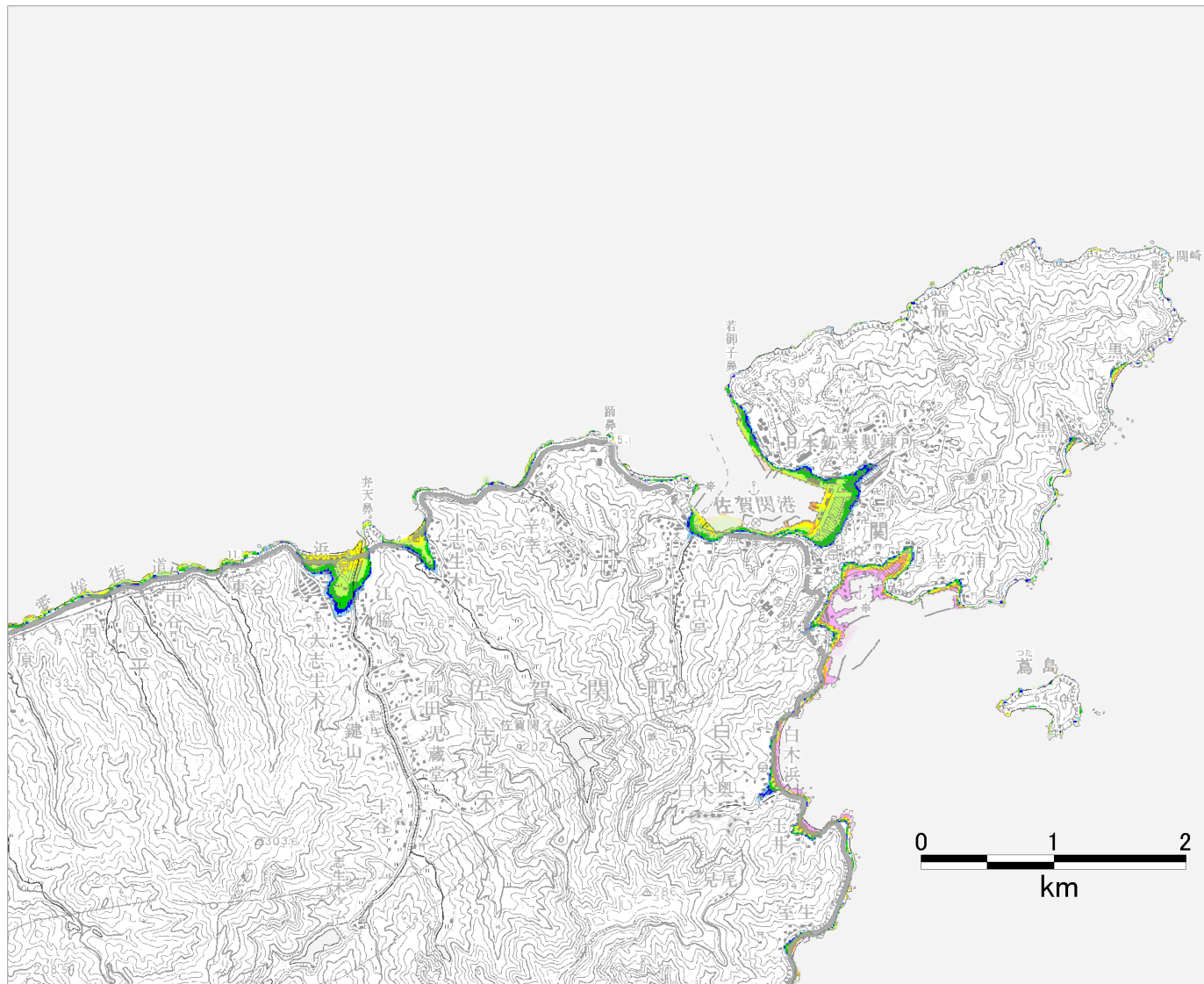
活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0～0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03～4	0.2～10	
周防灘断層群(主部)		2～4	7～10	—

＜想定震源＞:南海トラフの地震
 ＜初期潮位＞:朔望平均満潮位
 ＜堤防条件＞:堤防が機能しない



『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000（地図画像）を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:19



大分県 津波による浸水予測図
 実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

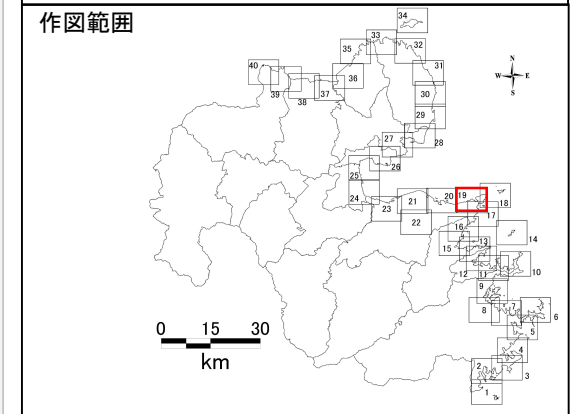
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300~400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0~0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03~4	0.2~10	
周防灘断層群(主部)		2~4	7~10	—

＜想定震源＞:南海トラフの地震
 ＜初期潮位＞:朔望平均満潮位
 ＜堤防条件＞:堤防が機能しない

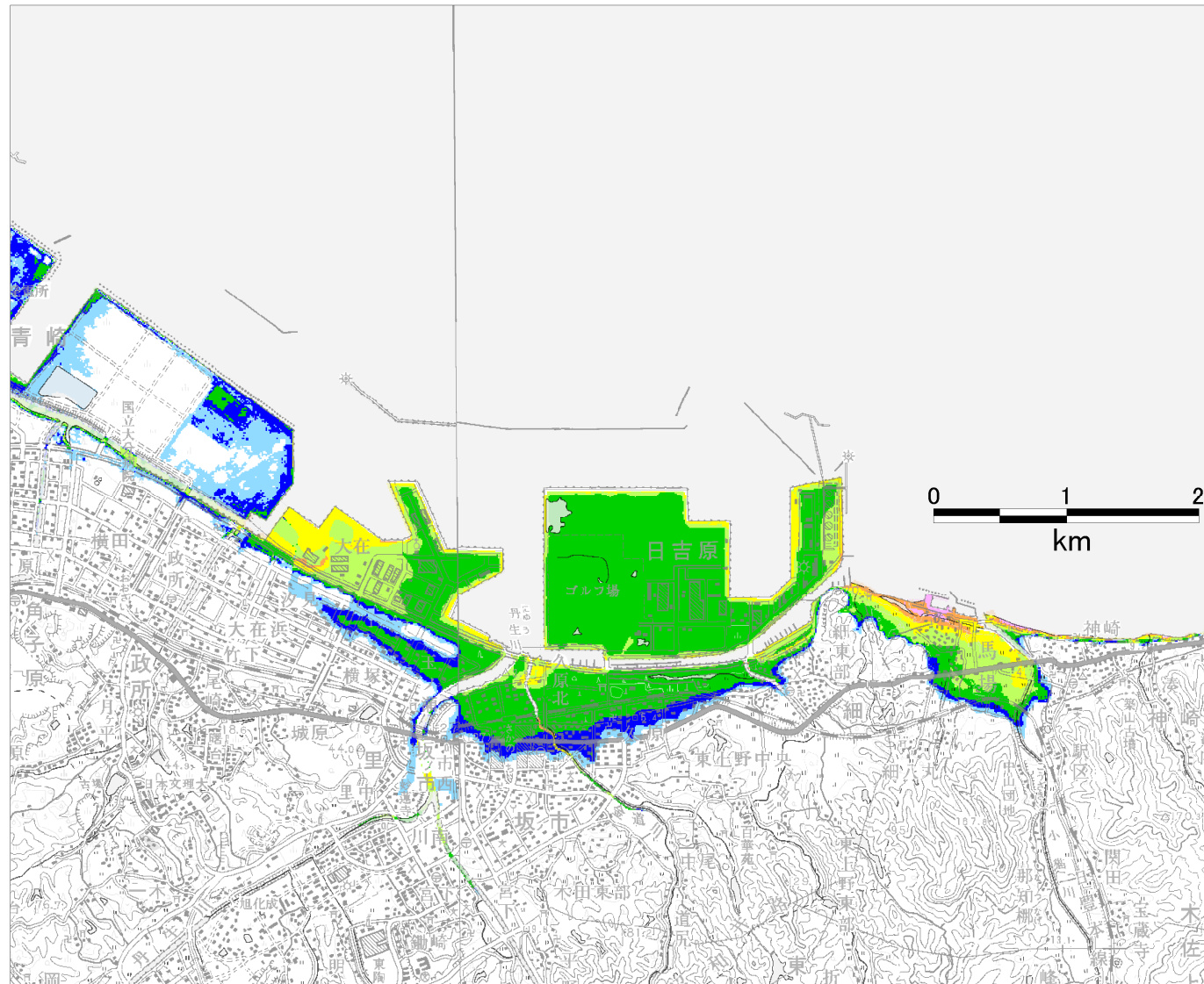


最大浸水深(m)

0m以上	0.5m未満
0.5m以上	1m未満
1m以上	2m未満
2m以上	3m未満
3m以上	4m未満
4m以上	5m未満
5m以上	10m未満
10m以上	15m未満

『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:20



大分県 津波による浸水予測図
 実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

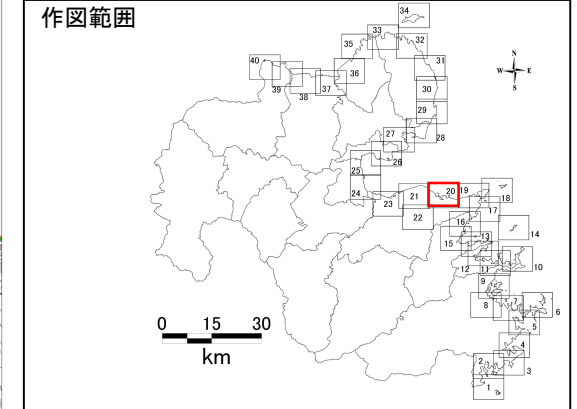
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300～400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0～0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03～4	0.2～10	
周防灘断層群(主部)		2～4	7～10	—

<想定震源>:南海トラフの地震
 <初期潮位>:朔望平均満潮位
 <堤防条件>:堤防が機能しない

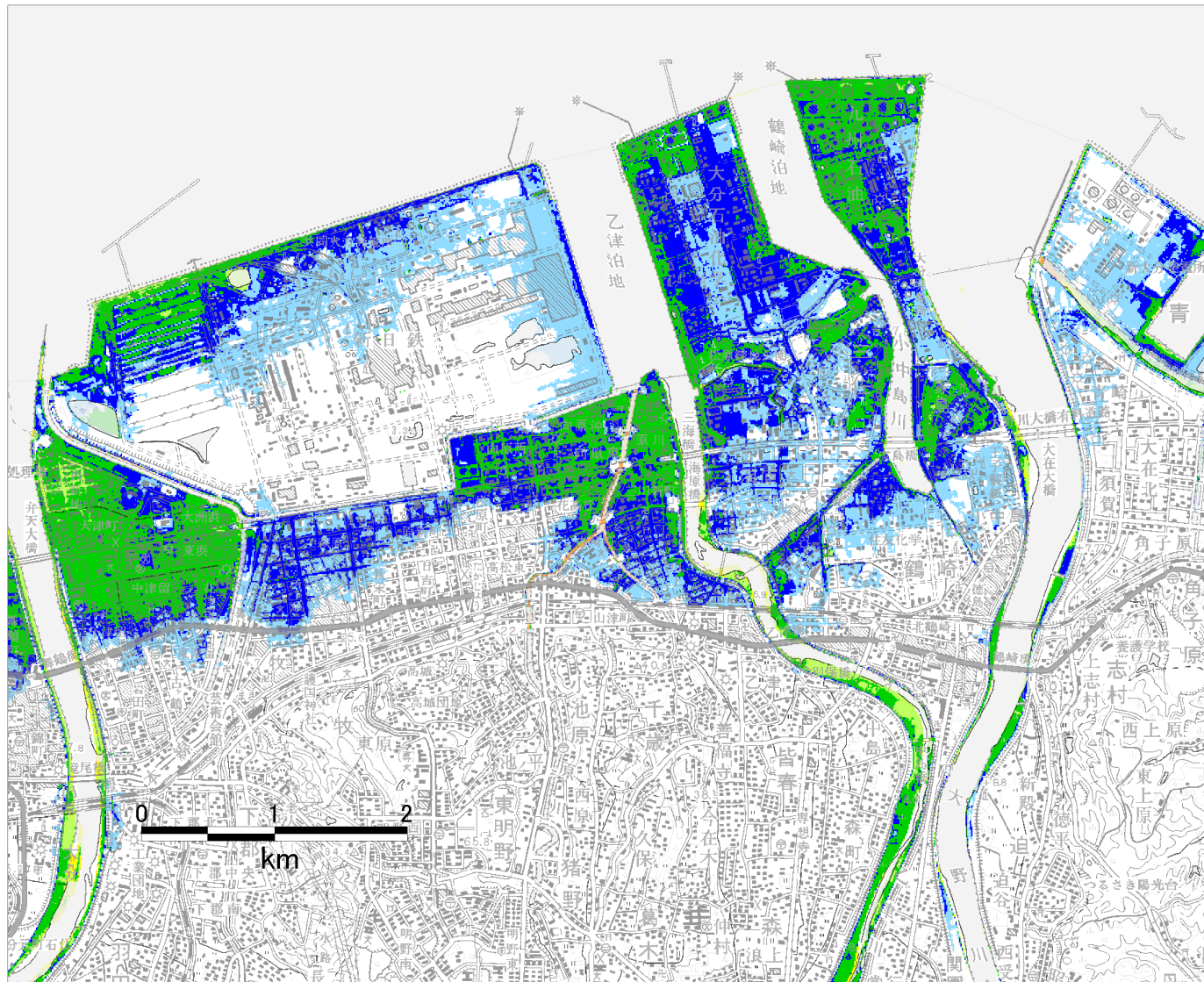


最大浸水深(m)

0m以上	～ 0.5m未満
0.5m以上	～ 1m未満
1m以上	～ 2m未満
2m以上	～ 3m未満
3m以上	～ 4m未満
4m以上	～ 5m未満
5m以上	～ 10m未満
10m以上	～ 15m未満

『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:21



大分県 津波による浸水予測図

実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

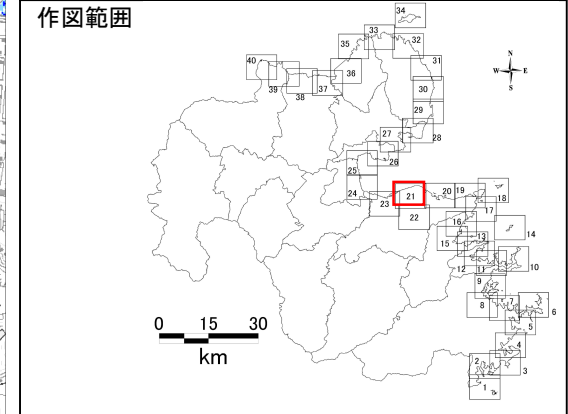
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300~400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0~0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03~4	0.2~10	
周防断層群(主部)		2~4	7~10	-

- <想定震源>: 南海トラフの地震
- <初期潮位>: 期望平均満潮位
- <堤防条件>: 堤防が機能しない

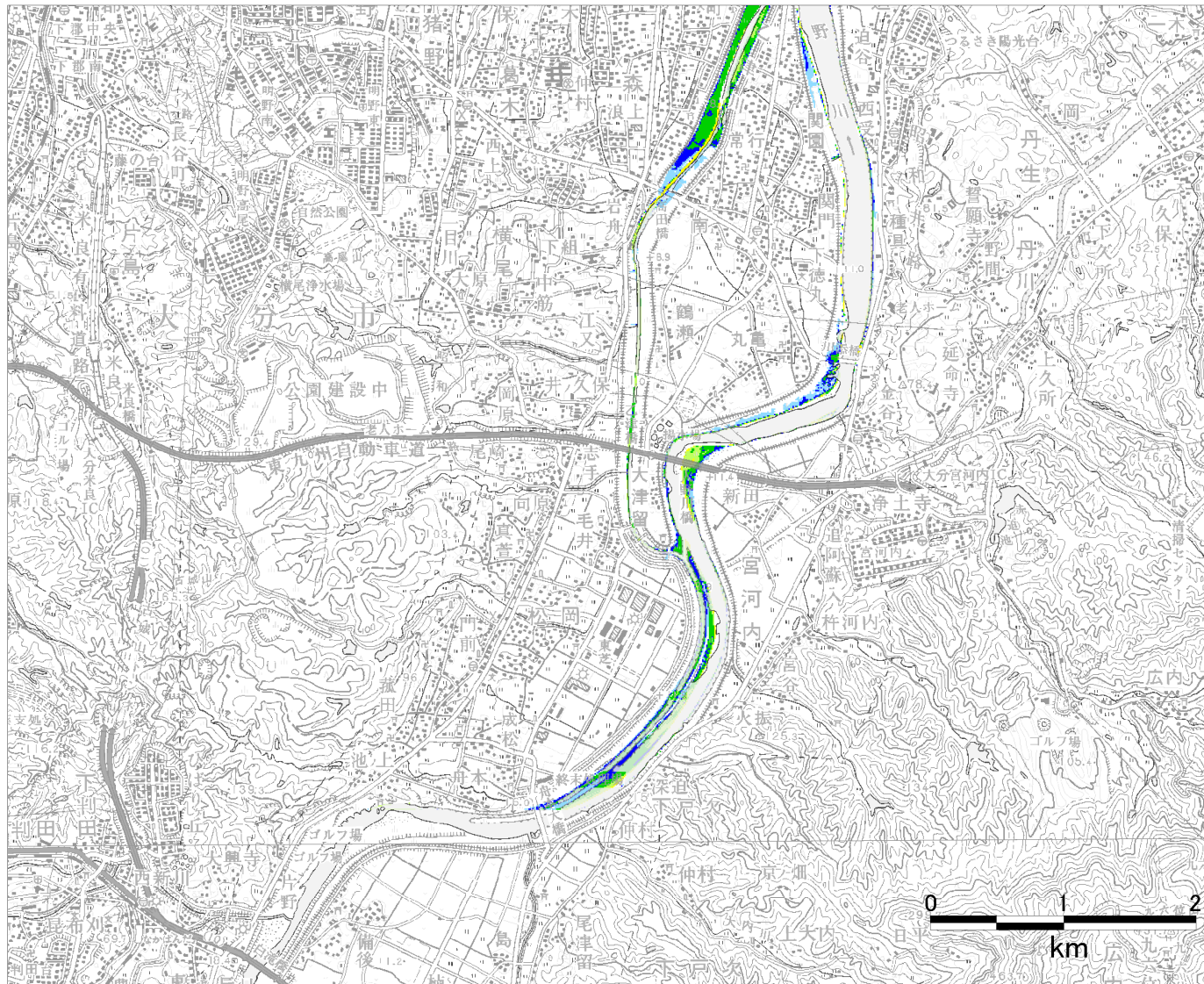


最大浸水深(m)

0m以上	- 0.5m未満
0.5m以上	- 1m未満
1m以上	- 2m未満
2m以上	- 3m未満
3m以上	- 4m未満
4m以上	- 5m未満
5m以上	- 10m未満
10m以上	- 15m未満

『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:22



大分県 津波による浸水予測図
 実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

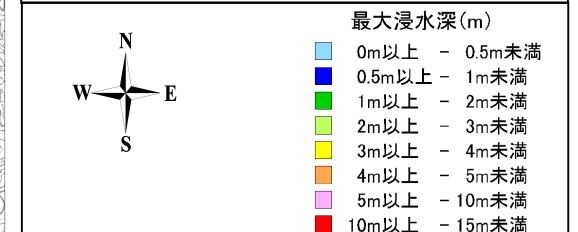
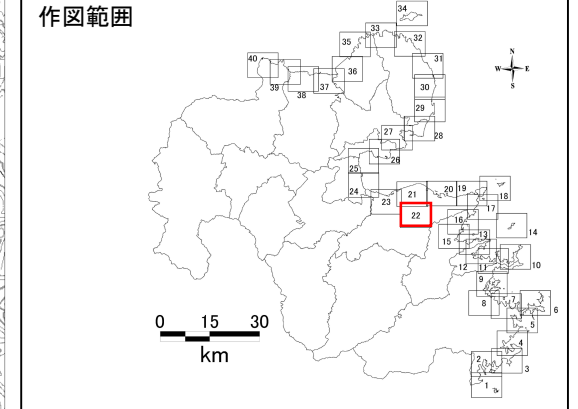
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300～400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	
周防灘断層群(主部)	2～4	7～10	

○活断層型地震

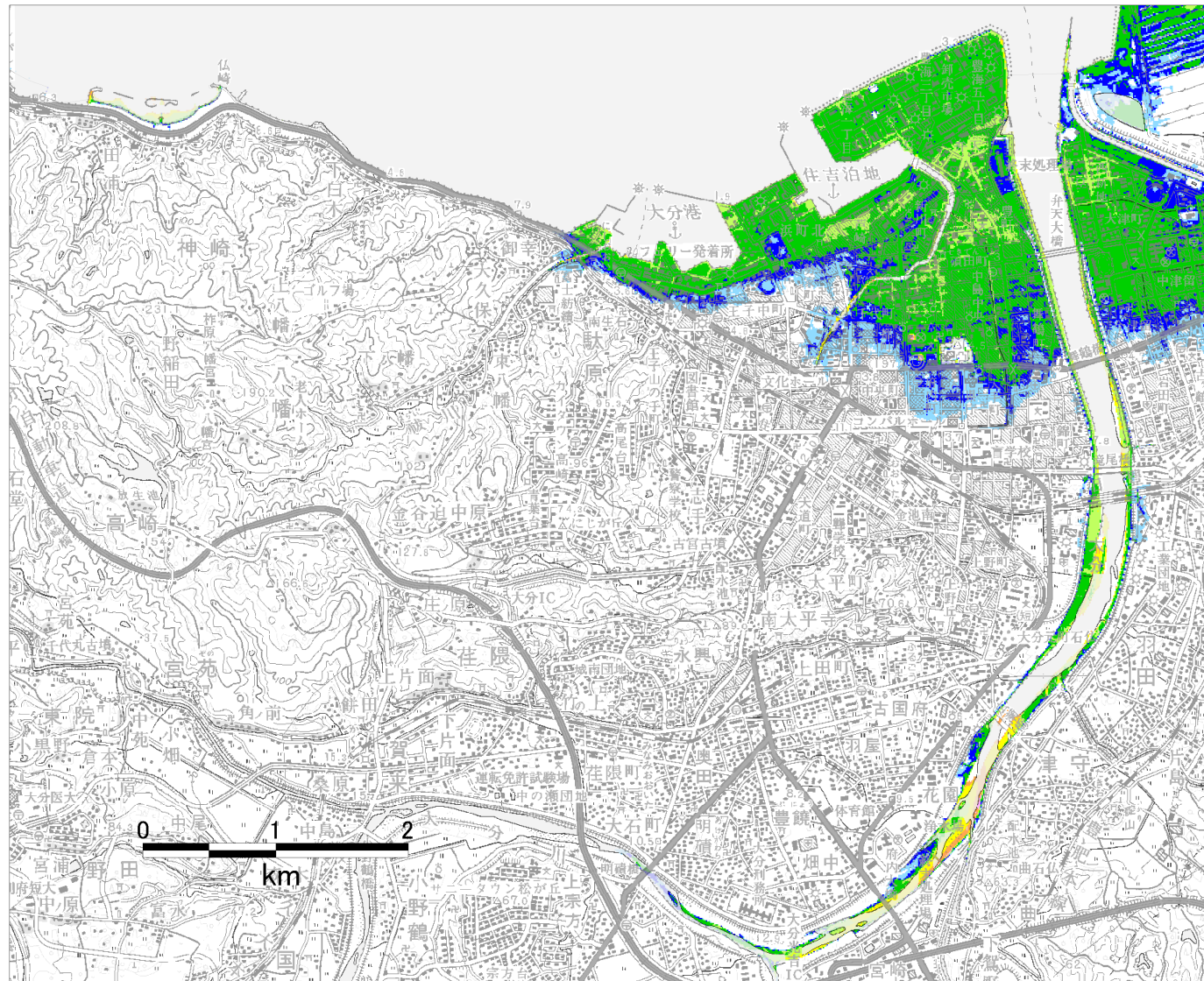
活断層名	発生確率		特記事項
	30年以内	100年以内	
別府湾-日出生断層帯(東部)	ほぼ0	ほぼ0～0.005	別府湾を震源とする地震として、1996年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	0.03～4	0.2～10	
周防灘断層群(主部)	2～4	7～10	

＜想定震源＞:南海トラフの地震
 ＜初期潮位＞:朔望平均満潮位
 ＜堤防条件＞:堤防が機能しない



『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:23



大分県 津波による浸水予測図
 実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

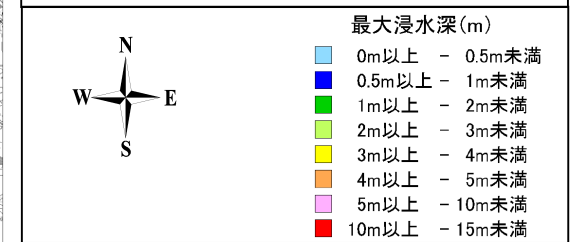
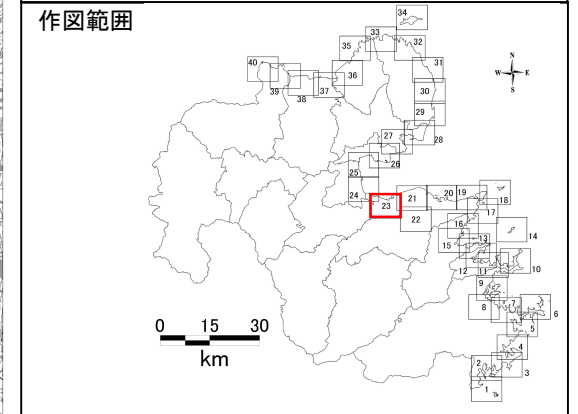
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300～400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

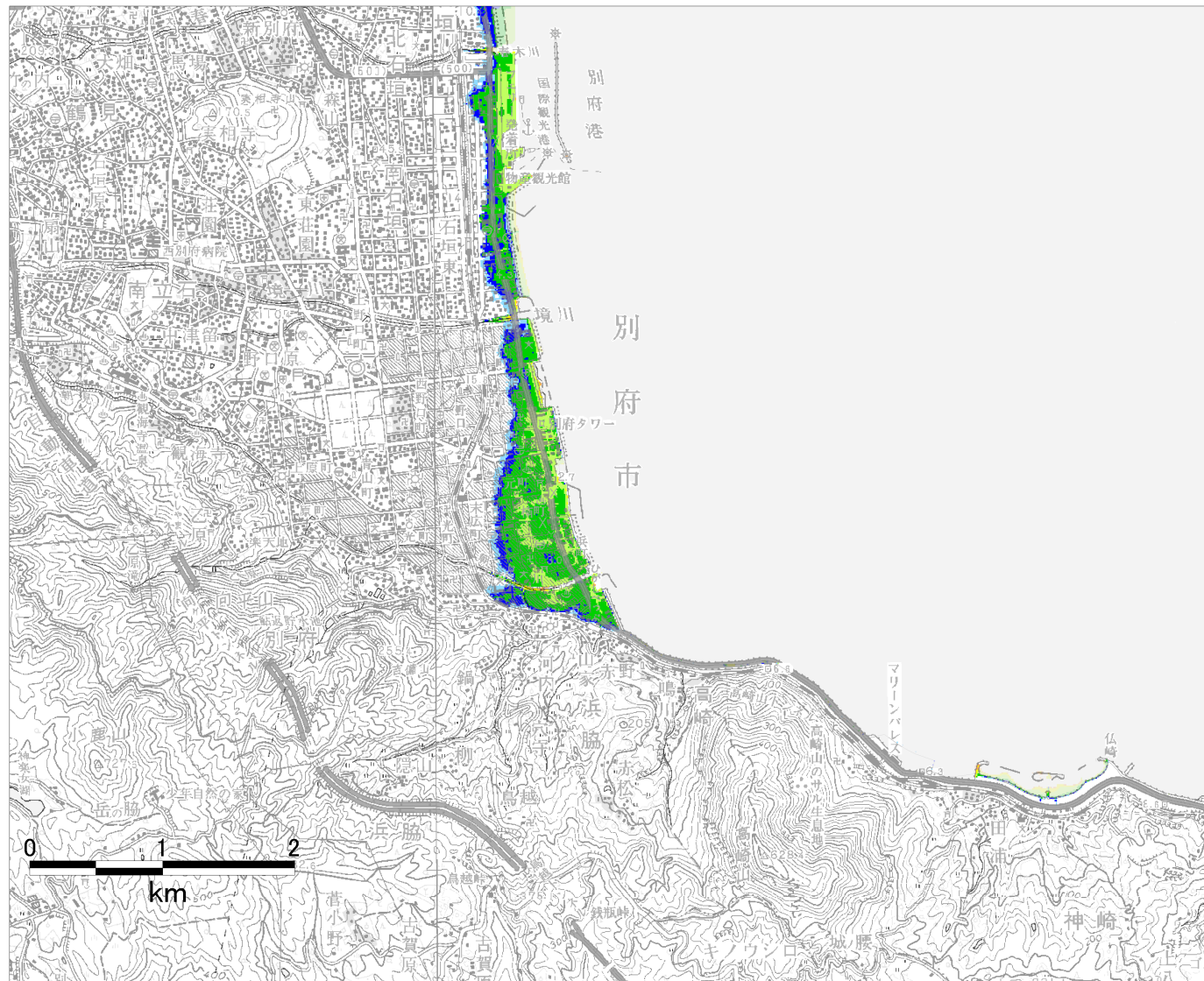
活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0～0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03～4	0.2～10	
周防灘断層群(主部)		2～4	7～10	—

＜想定震源＞:南海トラフの地震
 ＜初期潮位＞:朔望平均満潮位
 ＜堤防条件＞:堤防が機能しない



『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:24



大分県 津波による浸水予測図

実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

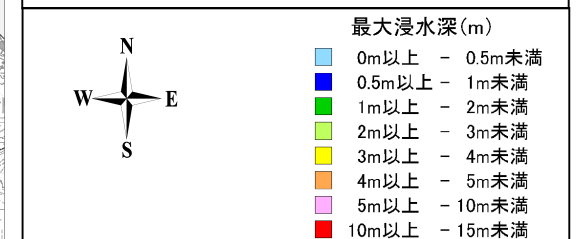
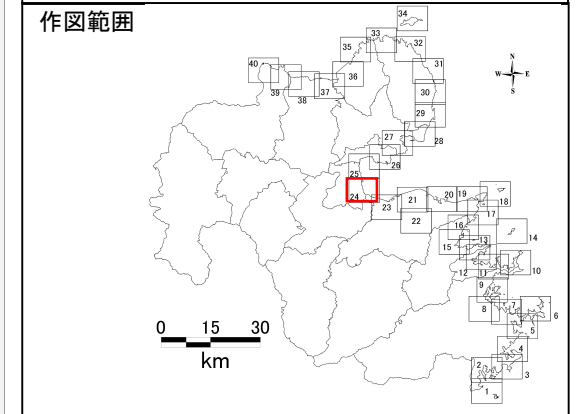
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300~400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

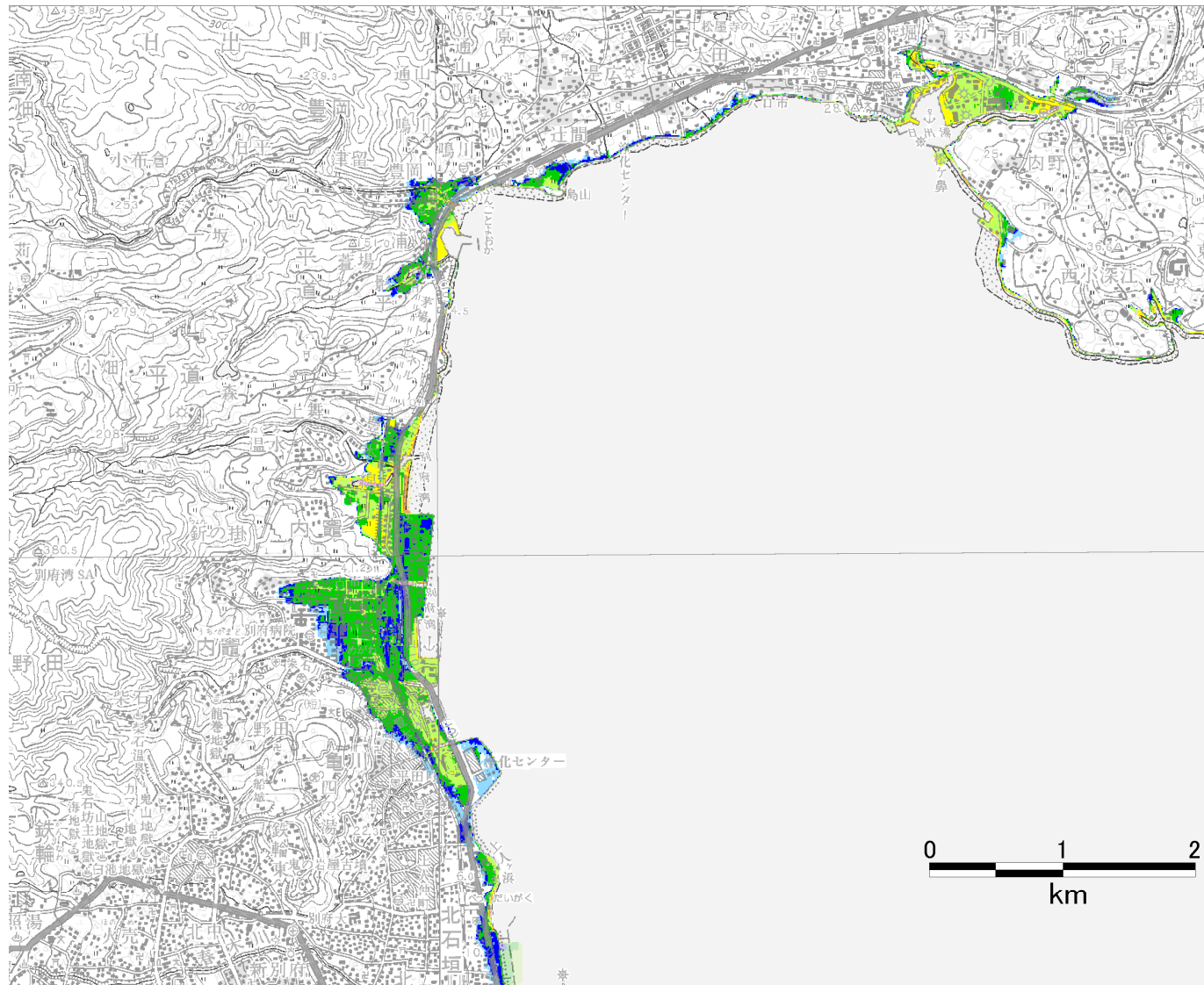
活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0~0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03~4	0.2~10	
開防断層群(主部)		2~4	7~10	-

<想定震源>: 南海トラフの地震
<初期潮位>: 朔望平均満潮位
<堤防条件>: 堤防が機能しない



『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:25



大分県 津波による浸水予測図

実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

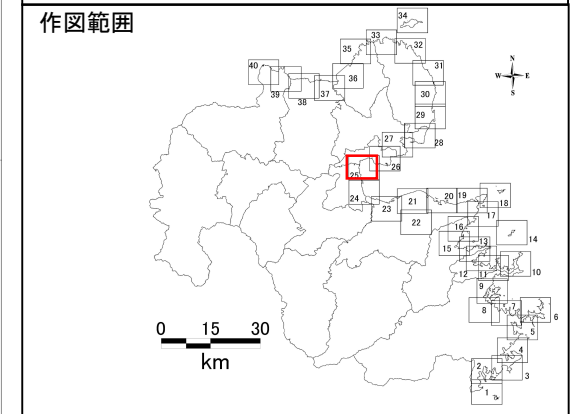
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300~400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0~0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03~4	0.2~10	
周防灘断層群(主部)		2~4	7~10	—

<想定震源>: 南海トラフの地震
<初期潮位>: 朔望平均満潮位
<堤防条件>: 堤防が機能しない

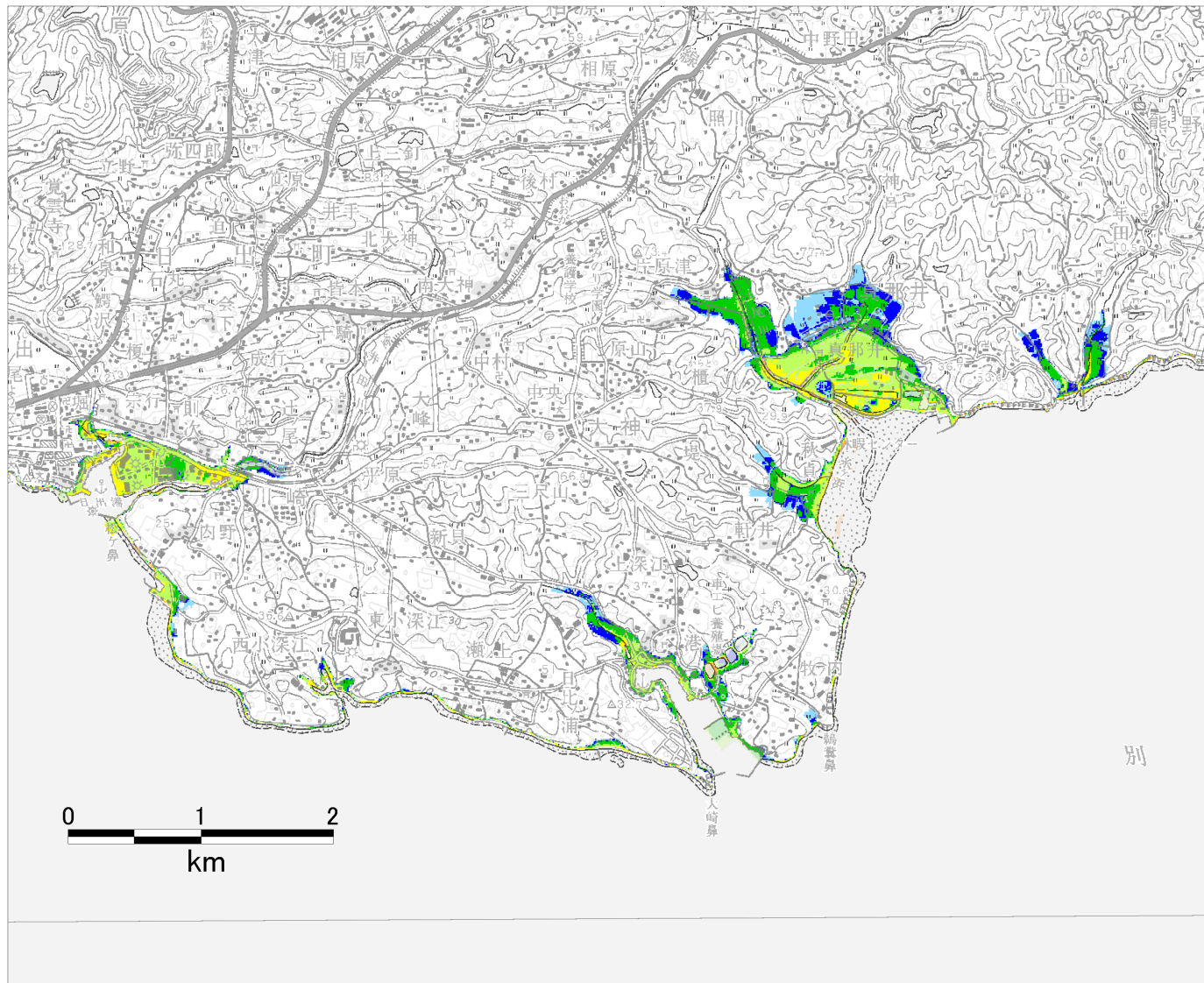


最大浸水深(m)

0m以上 - 0.5m未満	0.5m以上 - 1m未満
1m以上 - 2m未満	2m以上 - 3m未満
3m以上 - 4m未満	4m以上 - 5m未満
5m以上 - 10m未満	10m以上 - 15m未満

『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:26



大分県 津波による浸水予測図

実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

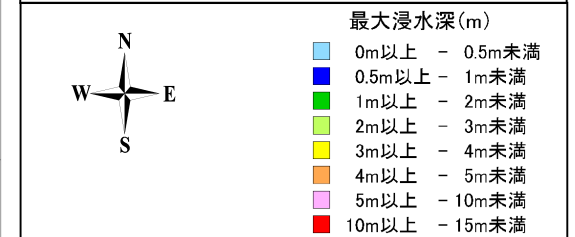
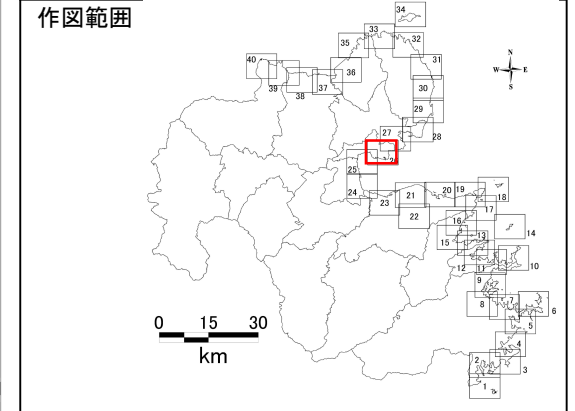
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300～400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

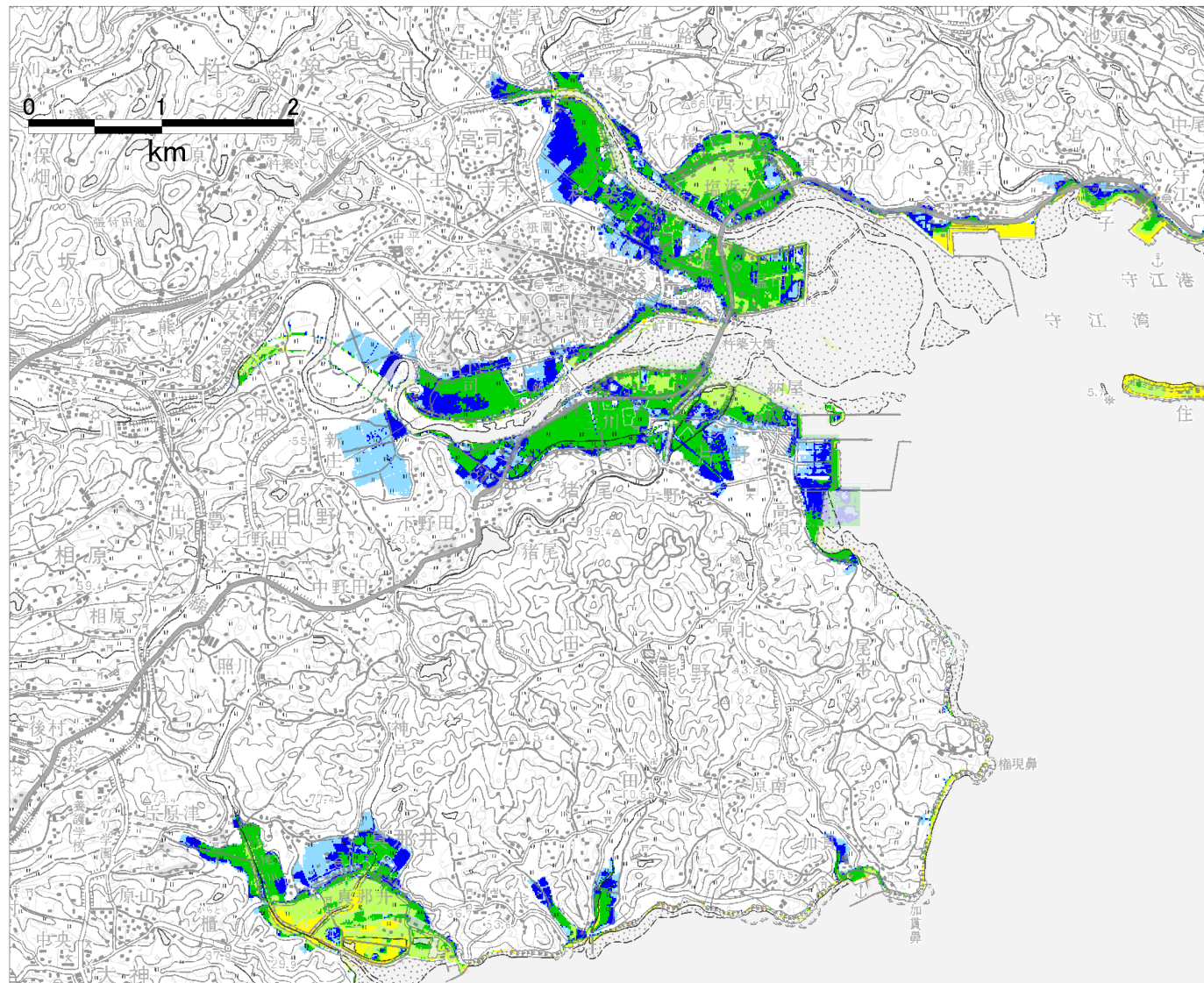
活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0～0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03～4	0.2～10	
周防灘断層群(主部)		2～4	7～10	

<想定震源>:南海トラフの地震
 <初期潮位>:朔望平均満潮位
 <堤防条件>:堤防が機能しない



『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:27



大分県 津波による浸水予測図

実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

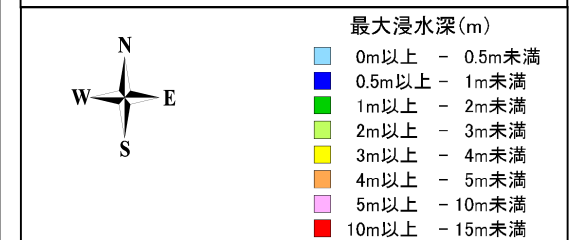
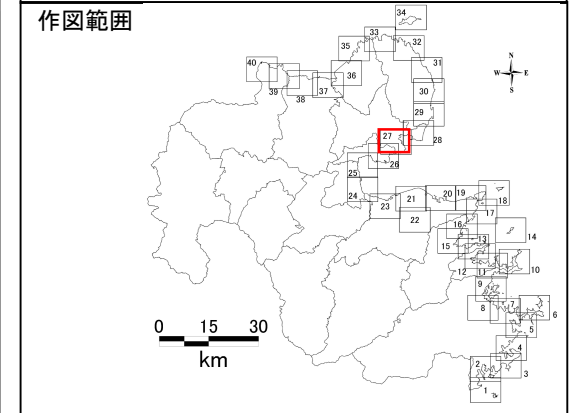
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300～400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

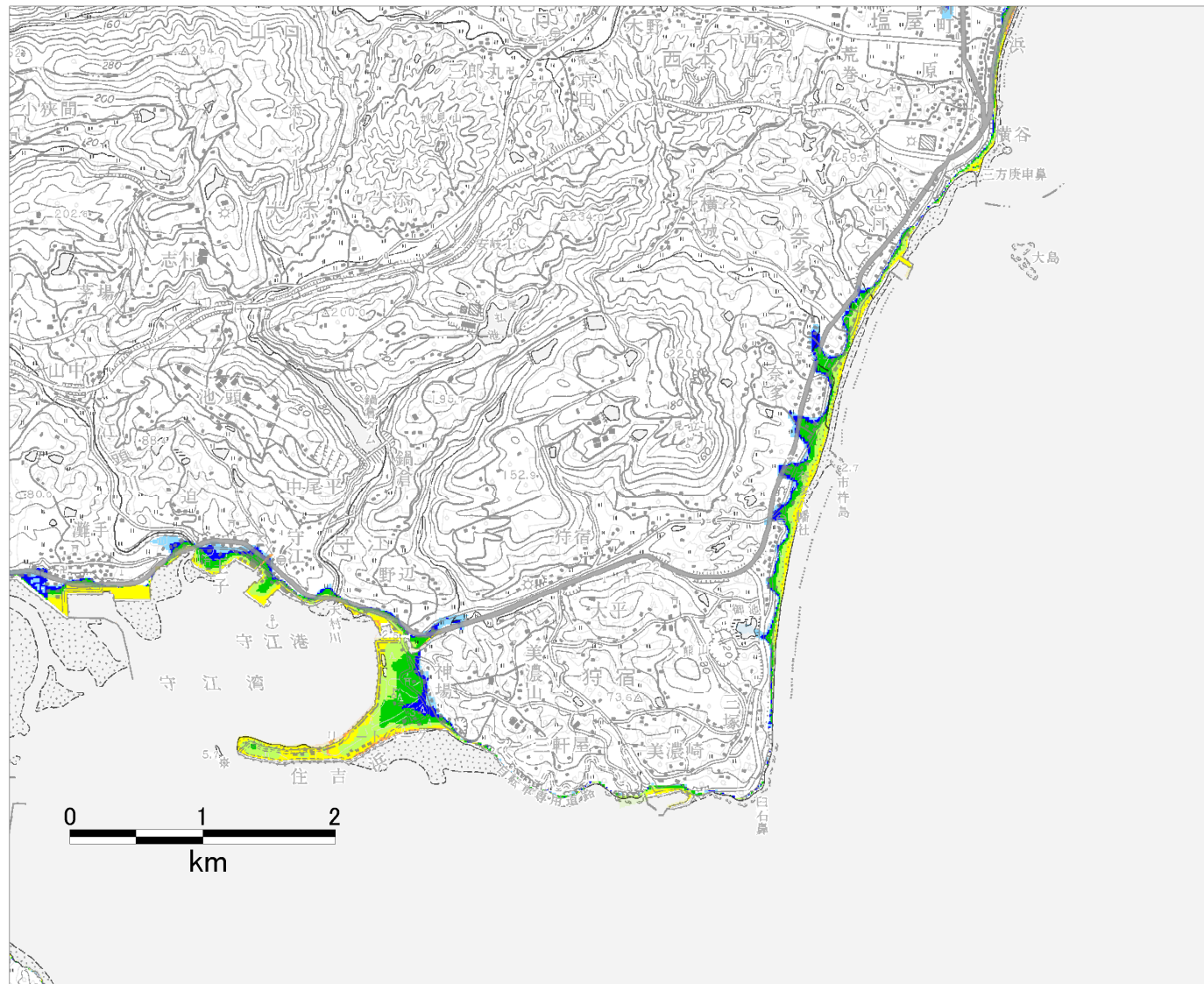
活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0～0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03～4	0.2～10	
周防灘断層群(主部)		2～4	7～10	—

<想定震源>:南海トラフの地震
<初期潮位>:朔望平均満潮位
<堤防条件>:堤防が機能しない



『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:28



大分県 津波による浸水予測図
 実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

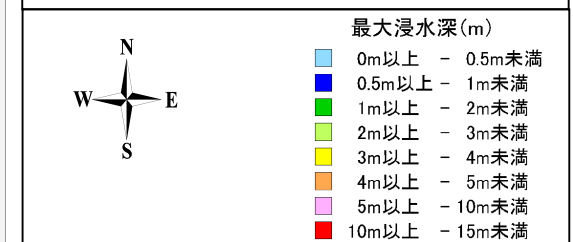
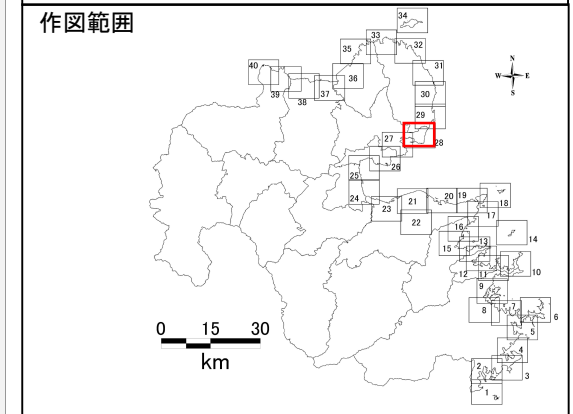
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	90年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300~400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0~0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03~4	0.2~10	
周防灘断層群(主節)		2~4	7~10	

<想定震源>:南海トラフの地震
 <初期潮位>:朔望平均満潮位
 <堤防条件>:堤防が機能しない



『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:29



大分県 津波による浸水予測図

実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300~400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0~0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03~4	0.2~10	
間防断層群(中部)		2~4	7~10	—

<想定震源>: 南海トラフの地震
<初期潮位>: 朔望平均満潮位
<堤防条件>: 堤防が機能しない

作図範囲

0 15 30 km

最大浸水深(m)

0m以上	- 0.5m未満
0.5m以上	- 1m未満
1m以上	- 2m未満
2m以上	- 3m未満
3m以上	- 4m未満
4m以上	- 5m未満
5m以上	- 10m未満
10m以上	- 15m未満

『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:30



大分県 津波による浸水予測図

実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

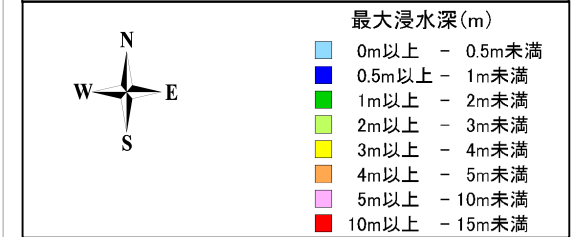
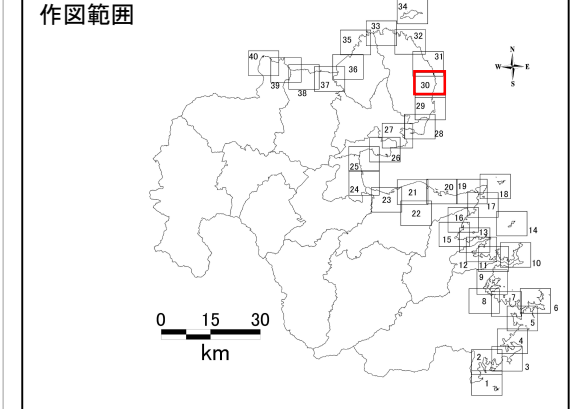
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300~400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

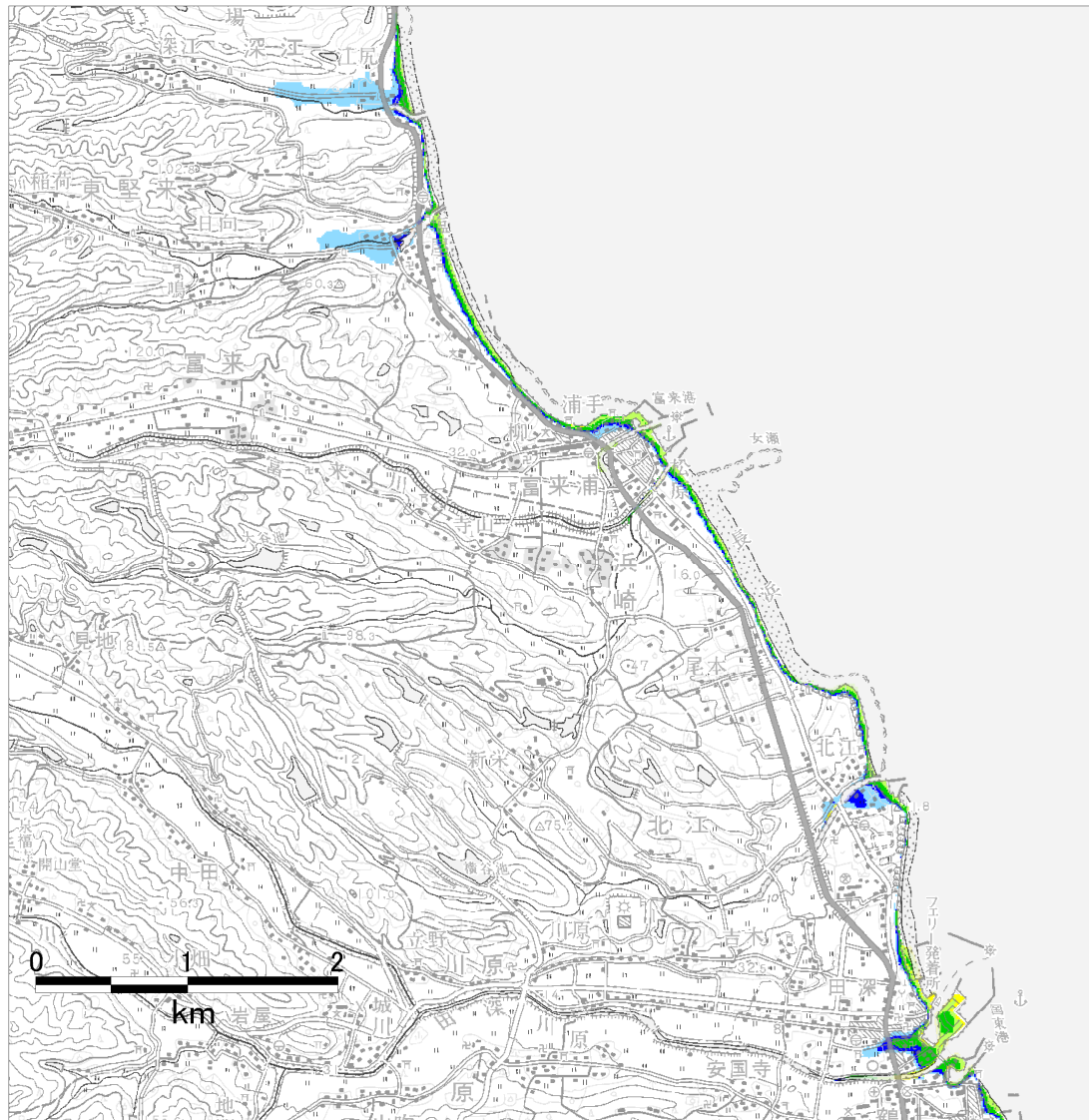
活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0~0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03~4	0.2~10	
間防灘断層群(主部)		2~4	7~10	

<想定震源>: 南海トラフの地震
 <初期潮位>: 朔望平均満潮位
 <堤防条件>: 堤防が機能しない



『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:31



大分県 津波による浸水予測図

実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300~400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0~0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03~4	0.2~10	
間防断層群(東部)		2~4	7~10	—

<想定震源>: 南海トラフの地震
<初期潮位>: 朔望平均満潮位
<堤防条件>: 堤防が機能しない

作図範囲

最大浸水深(m)

0m以上	- 0.5m未満
0.5m以上	- 1m未満
1m以上	- 2m未満
2m以上	- 3m未満
3m以上	- 4m未満
4m以上	- 5m未満
5m以上	- 10m未満
10m以上	- 15m未満

『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:32

大分県 津波による浸水予測図

実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

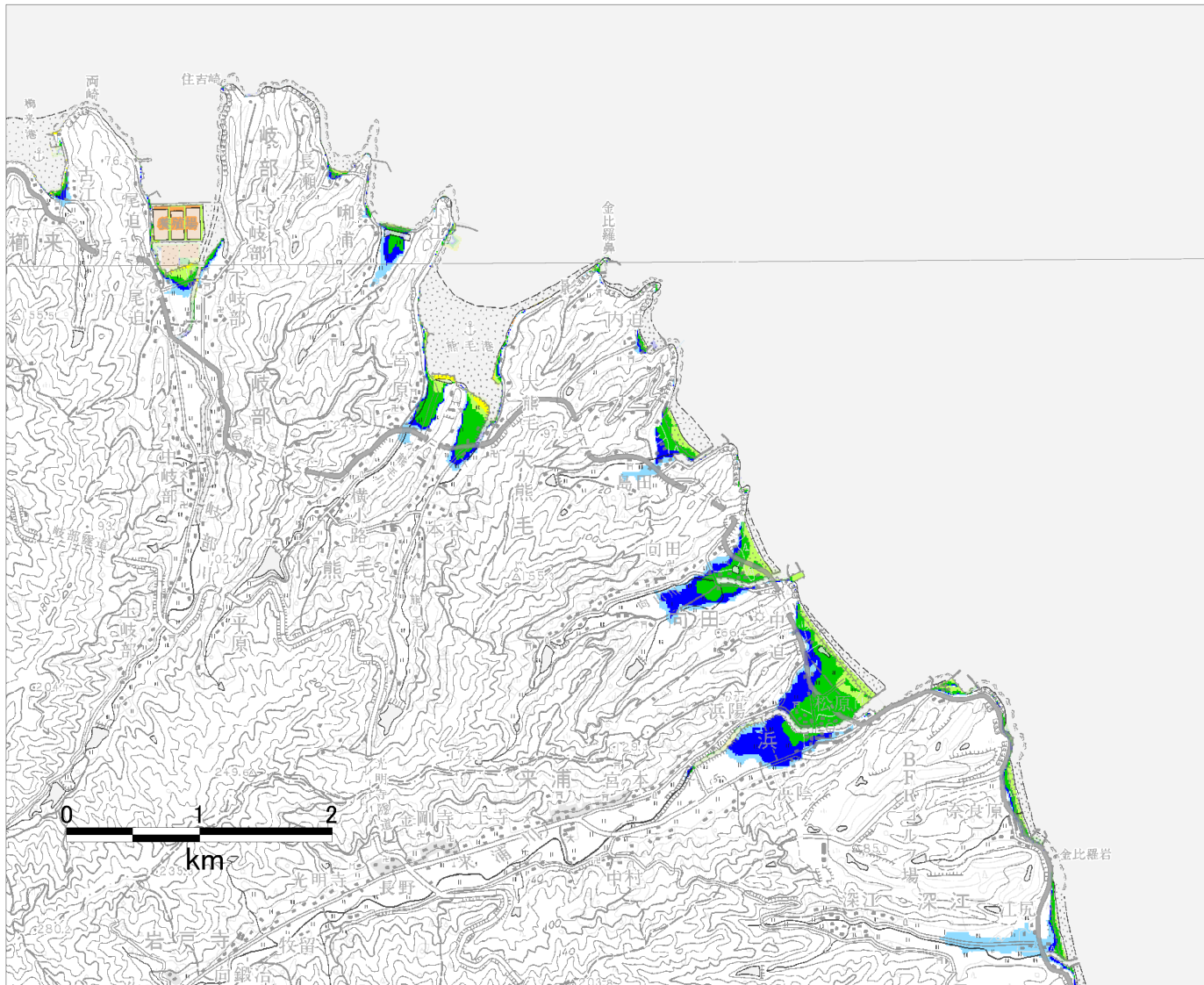
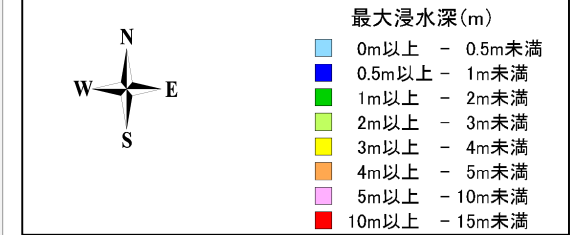
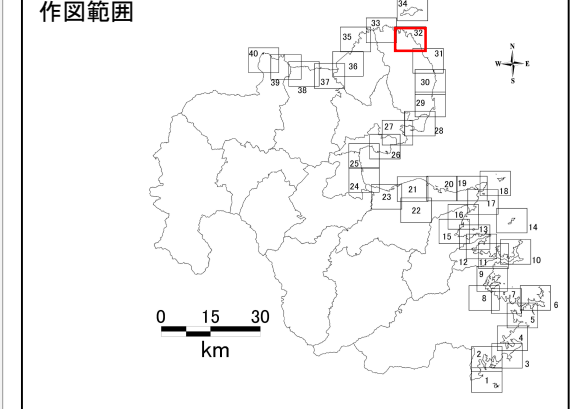
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300~400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0~0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03~4	0.2~10	
周防灘断層群(主部)		2~4	7~10	—

＜想定震源＞：南海トラフの地震
 ＜初期潮位＞：期望平均満潮位
 ＜堤防条件＞：堤防が機能しない



『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:33

大分県 津波による浸水予測図
 実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

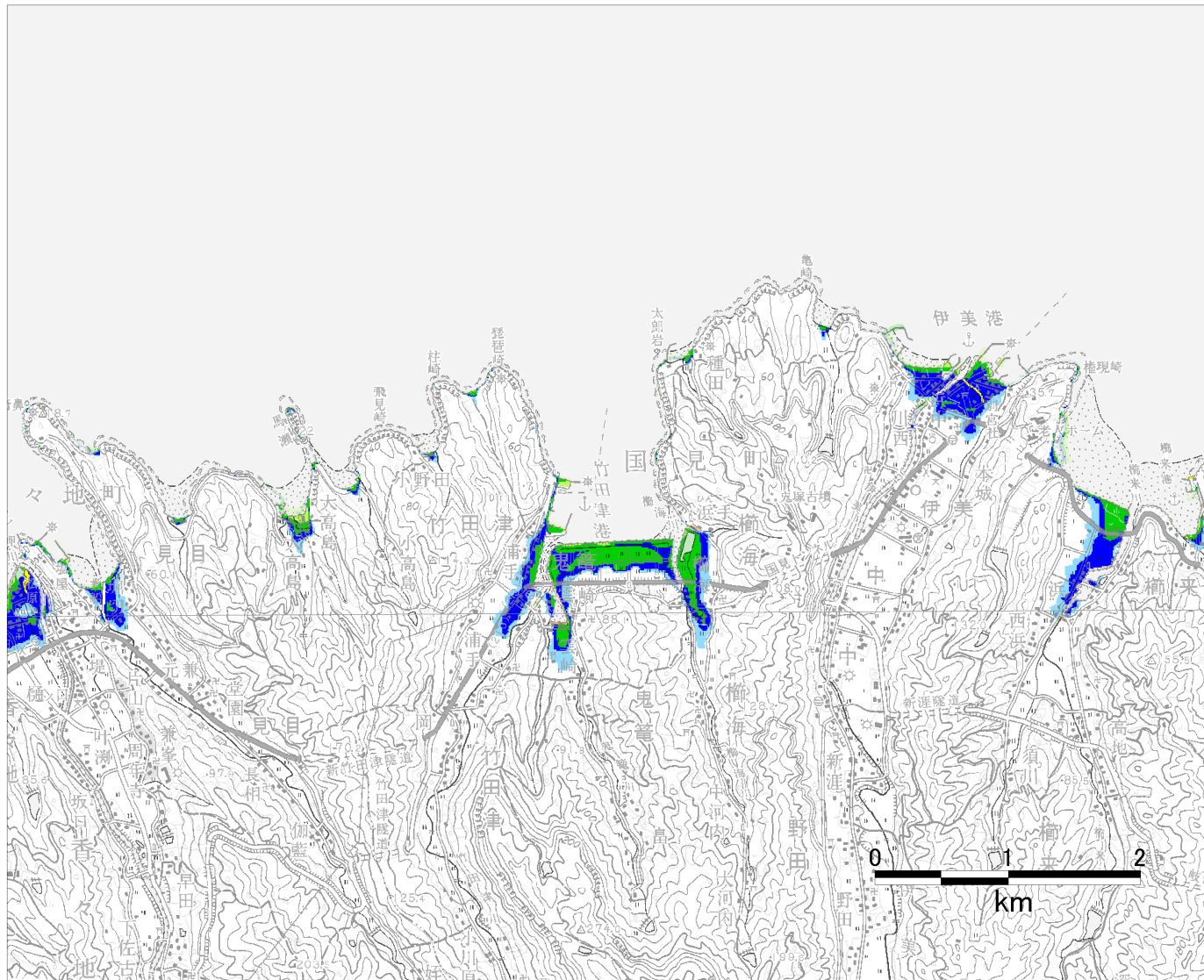
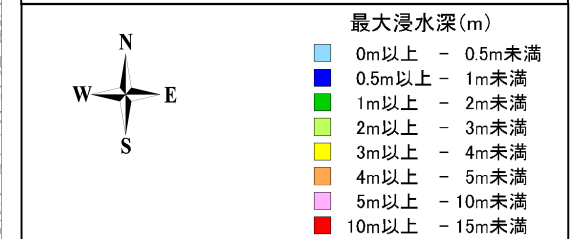
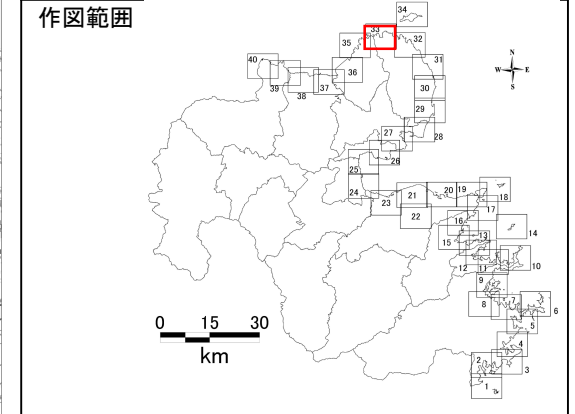
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300~400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0~0.005	別府湾を震源とする地震として、1586年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03~4	0.2~10	
周防灘断層群(主部)		2~4	7~10	-

＜想定震源＞：南海トラフの地震
 ＜初期潮位＞：朔望平均満潮位
 ＜堤防条件＞：堤防が機能しない



『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:34

大分県 津波による浸水予測図

実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300～400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

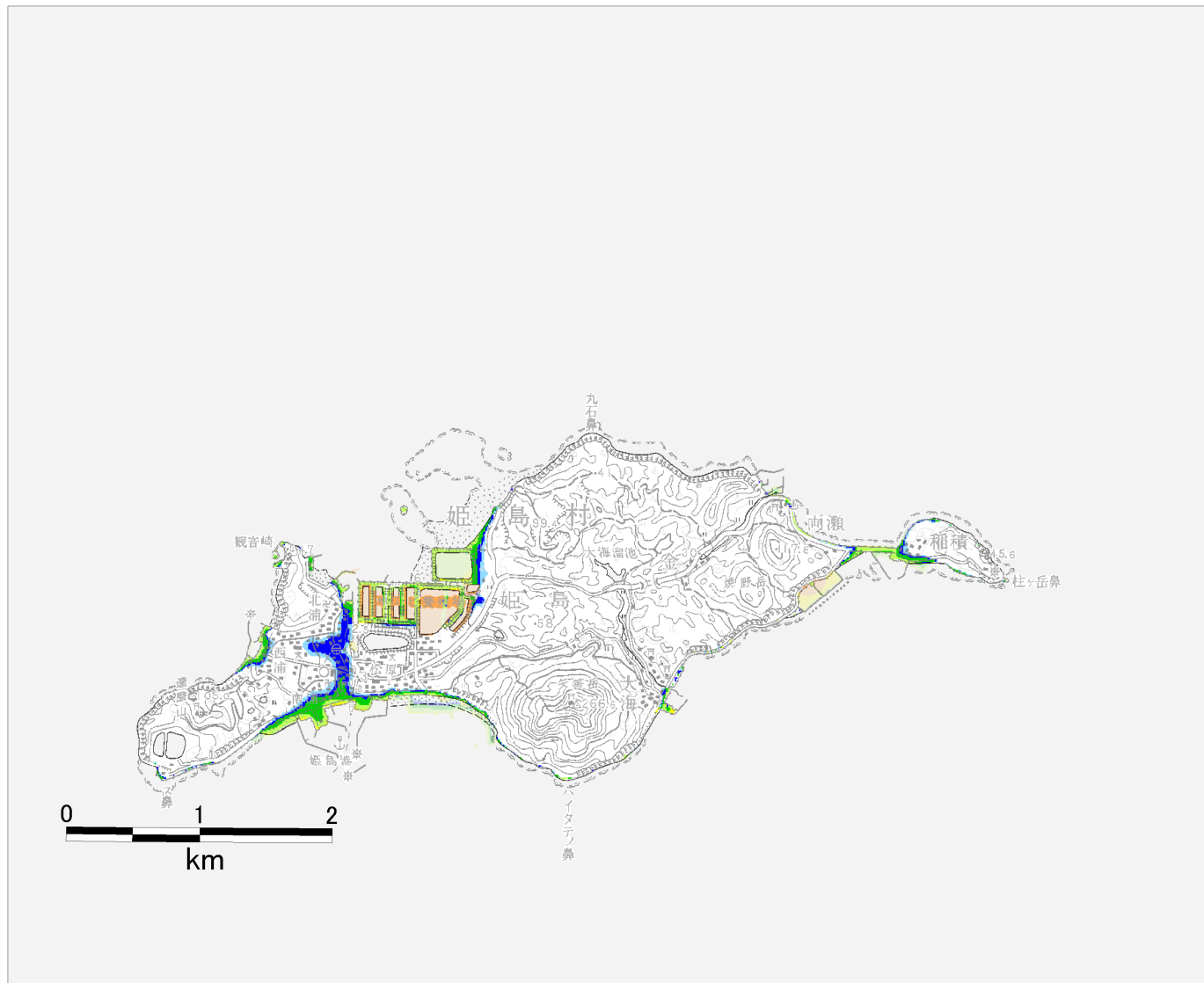
活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0～0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03～4	0.2～10	
周防灘断層群(主部)		2～4	7～10	—

<想定震源>:南海トラフの地震
<初期潮位>:朔望平均満潮位
<堤防条件>:堤防が機能しない

作図範囲

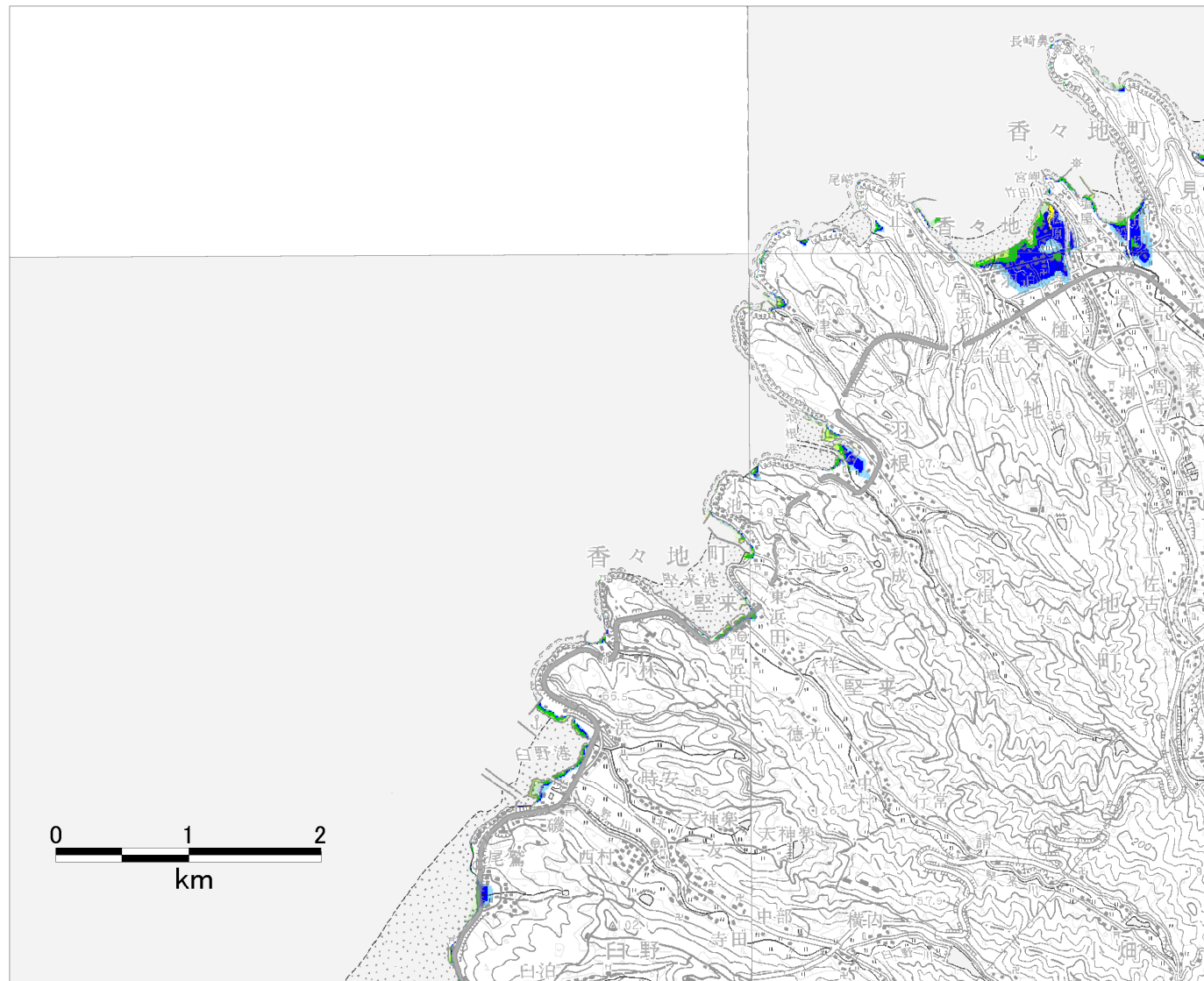
最大浸水深(m)

0m以上	0.5m未満
0.5m以上	1m未満
1m以上	2m未満
2m以上	3m未満
3m以上	4m未満
4m以上	5m未満
5m以上	10m未満
10m以上	15m未満



『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:35



大分県 津波による浸水予測図

実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

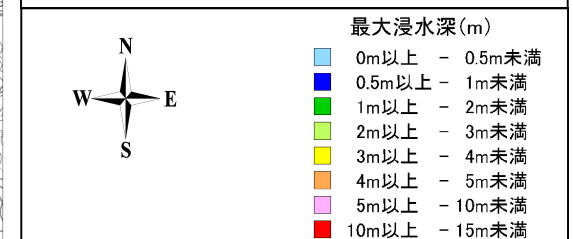
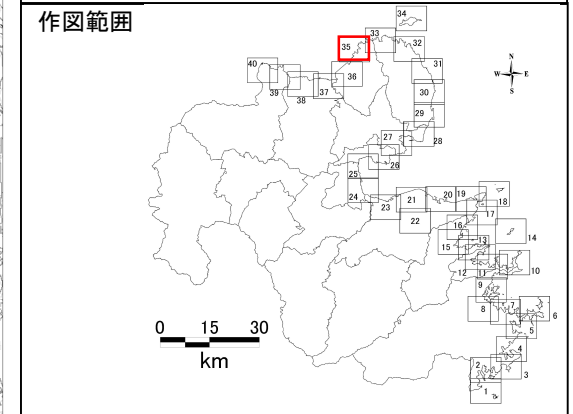
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 ±しくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300~400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

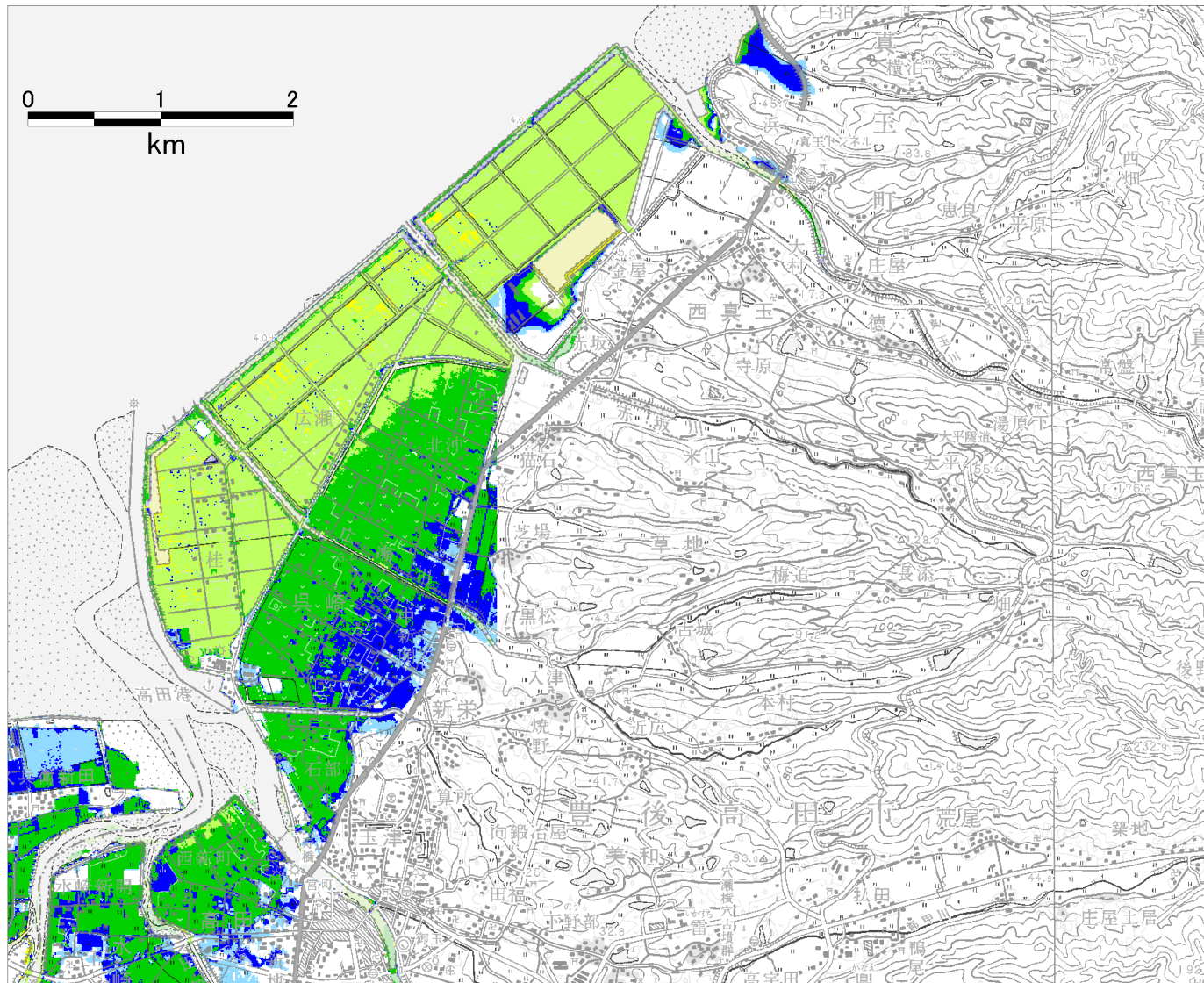
活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0~0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03~4	0.2~10	
開防瀬断層群(主部)		2~4	7~10	-

＜想定震源＞：南海トラフの地震
 ＜初期潮位＞：朔望平均満潮位
 ＜堤防条件＞：堤防が機能しない



『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:36



大分県 津波による浸水予測図

実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

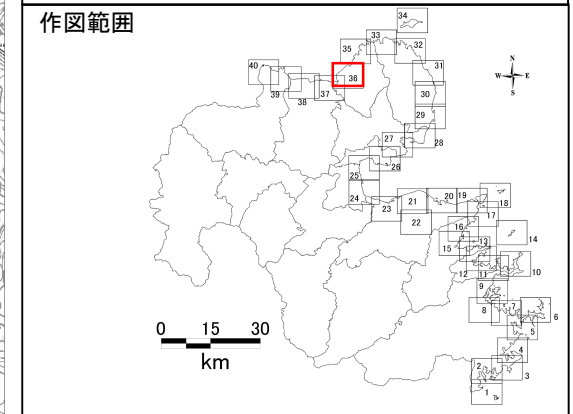
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300~400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0~0.005	別府湾を震源とする地震として、1996年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03~4	0.2~10	
周防灘断層群(主部)		2~4	7~10	—

<想定震源>: 南海トラフの地震
<初期潮位>: 朔望平均満潮位
<堤防条件>: 堤防が機能しない

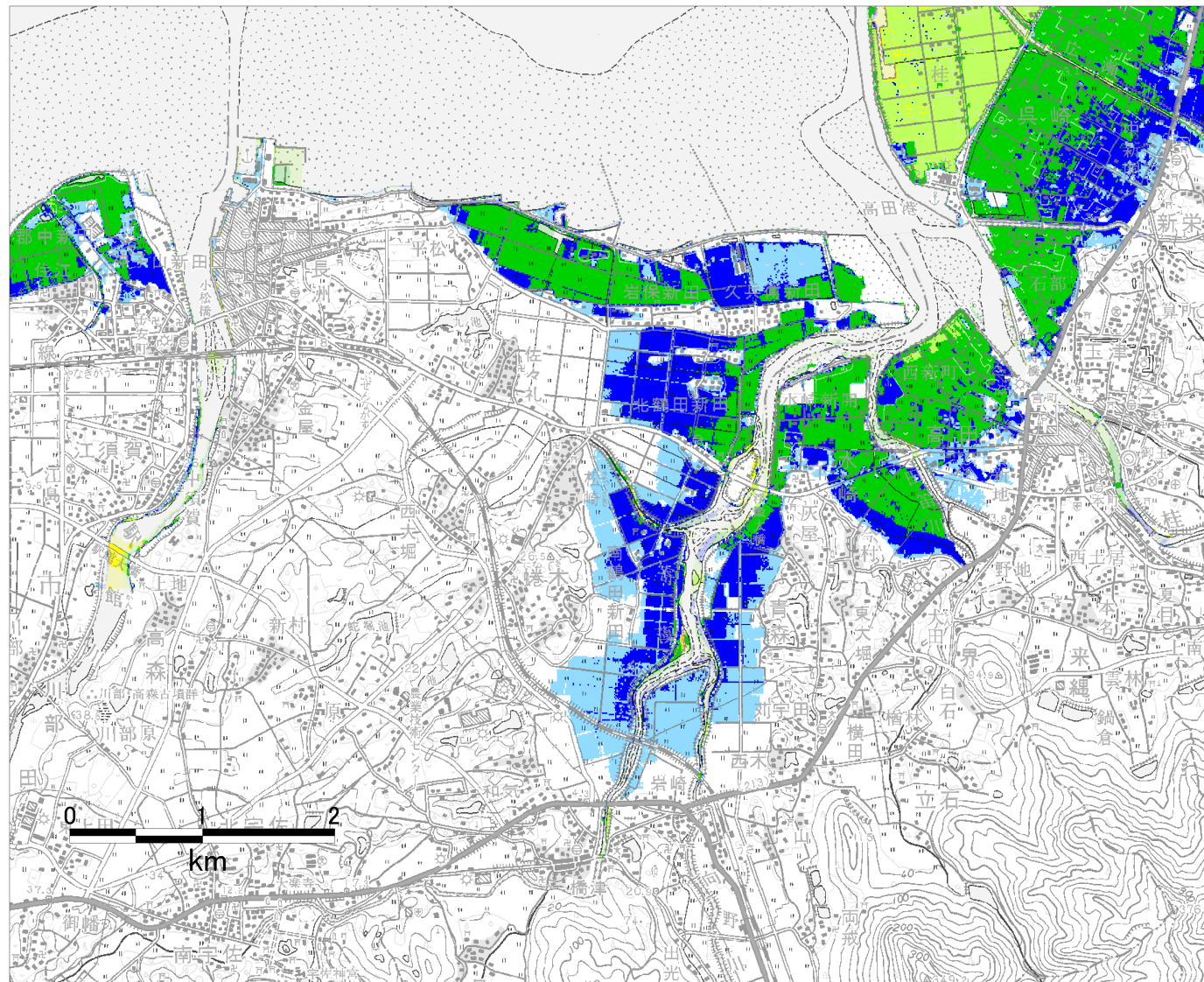


最大浸水深(m)

0m以上	- 0.5m未満
0.5m以上	- 1m未満
1m以上	- 2m未満
2m以上	- 3m未満
3m以上	- 4m未満
4m以上	- 5m未満
5m以上	- 10m未満
10m以上	- 15m未満

『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:37



大分県 津波による浸水予測図
 実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

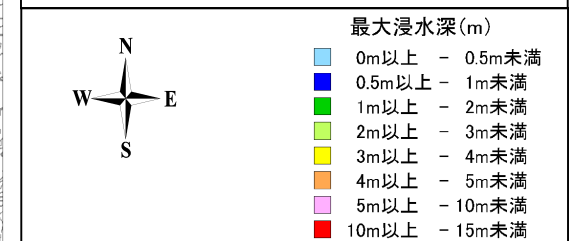
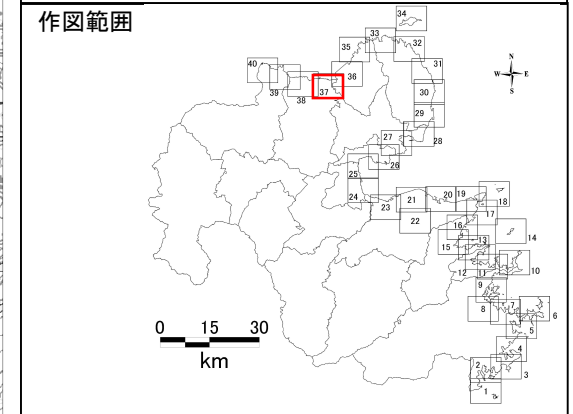
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300~400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

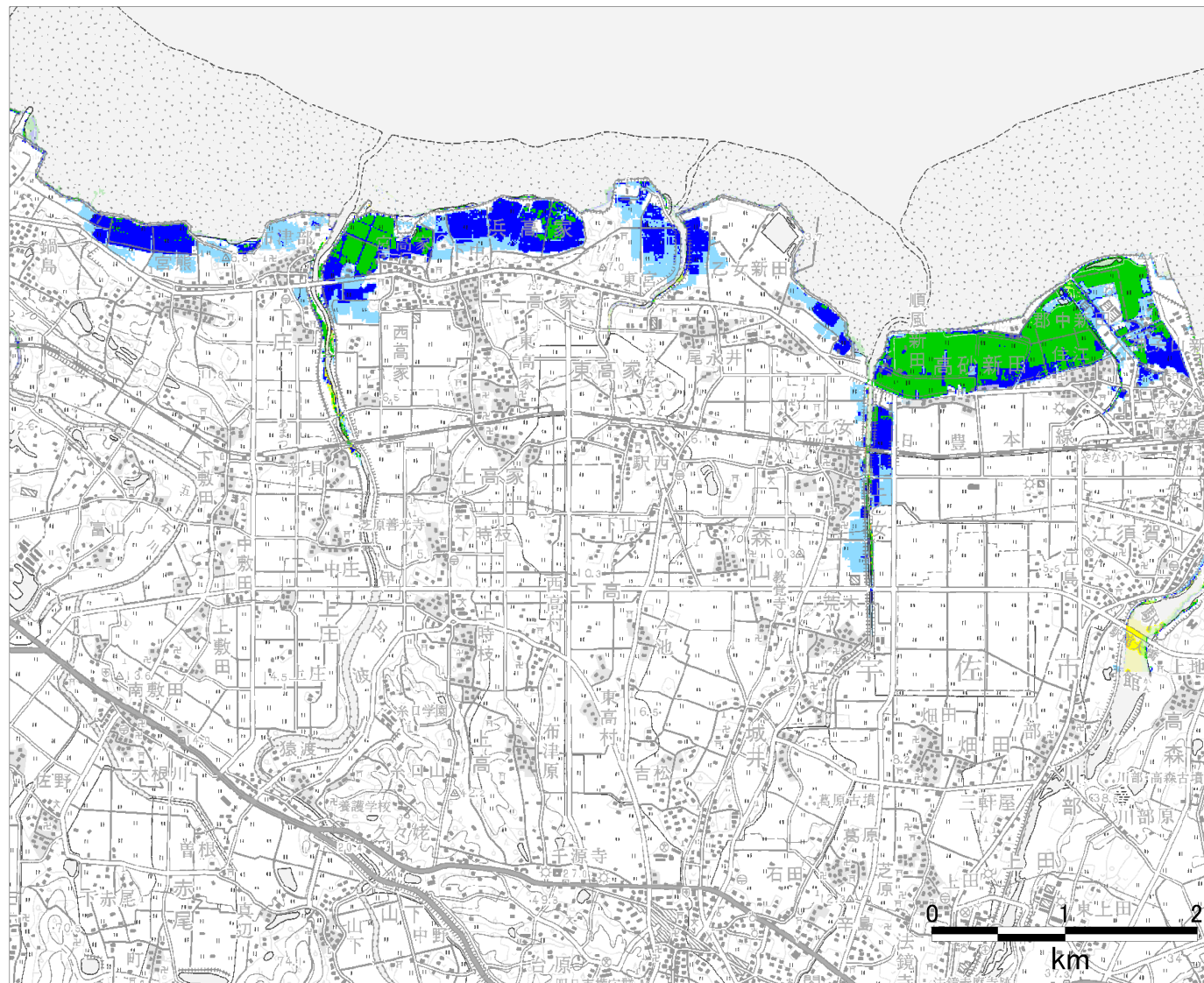
活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0~0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03~4	0.2~10	
周防灘断層群(東部)		2~4	7~10	

<想定震源>: 南海トラフの地震
 <初期潮位>: 朔望平均満潮位
 <堤防条件>: 堤防が機能しない



『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:38



大分県 津波による浸水予測図
 実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

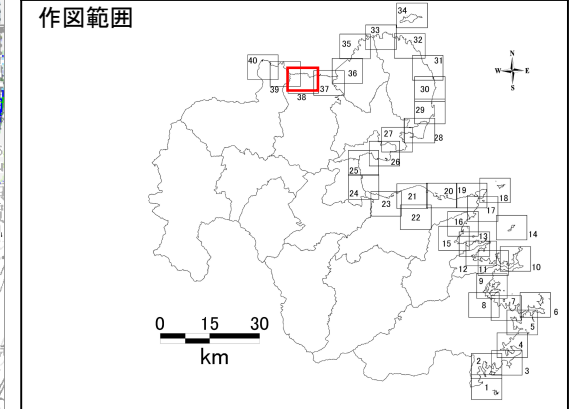
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300~400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0~0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03~4	0.2~10	
周防灘断層群(主部)		2~4	7~10	

<想定震源>:南海トラフの地震
 <初期潮位>:朔望平均満潮位
 <堤防条件>:堤防が機能しない

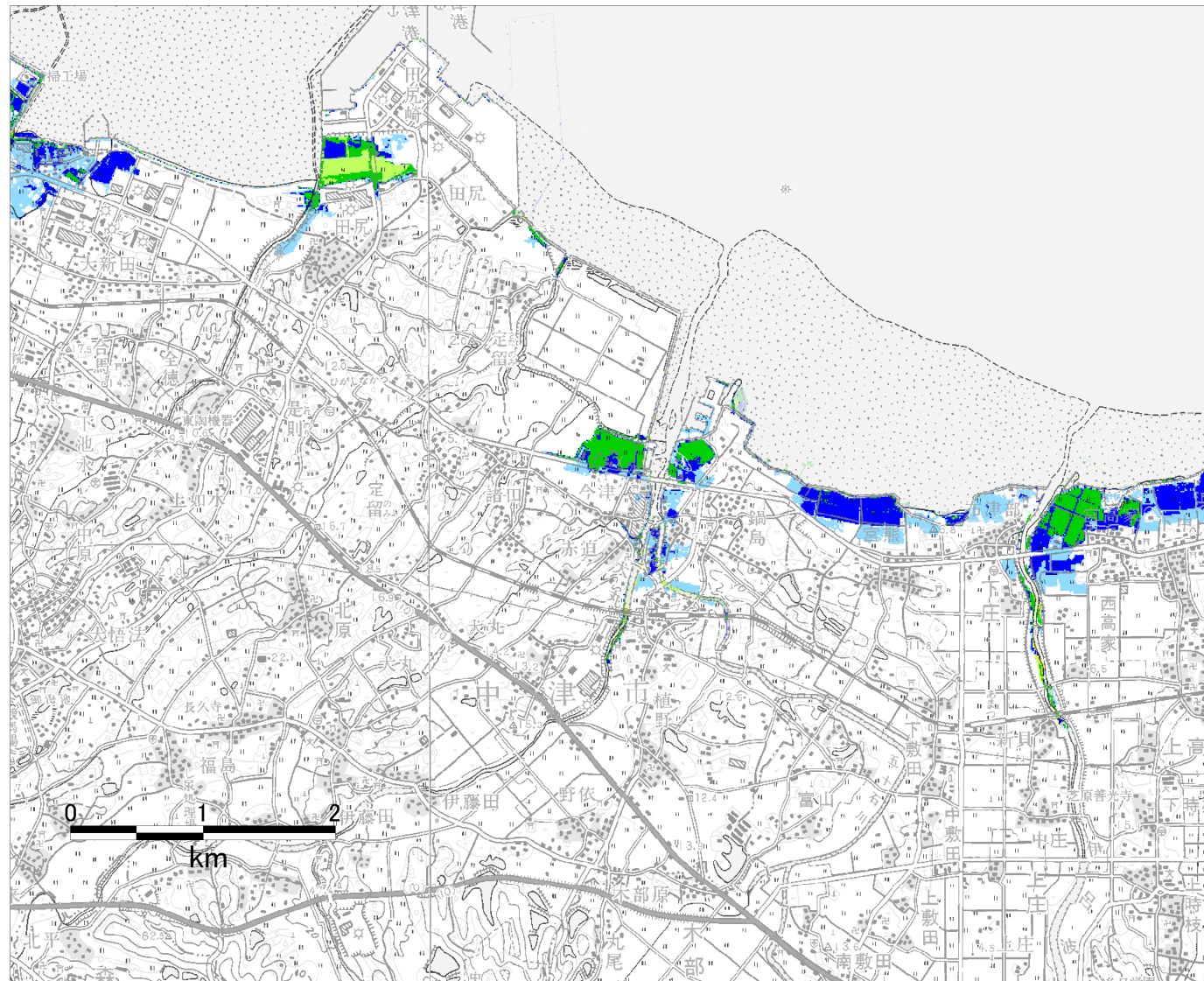


最大浸水深(m)

0m以上	- 0.5m未満
0.5m以上	- 1m未満
1m以上	- 2m未満
2m以上	- 3m未満
3m以上	- 4m未満
4m以上	- 5m未満
5m以上	- 10m未満
10m以上	- 15m未満

『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:39



大分県 津波による浸水予測図
 実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

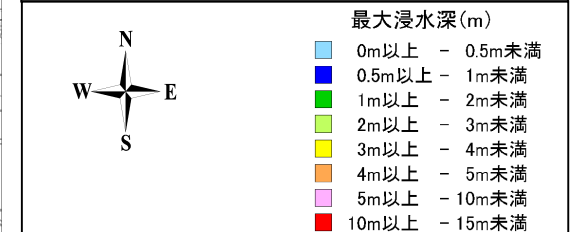
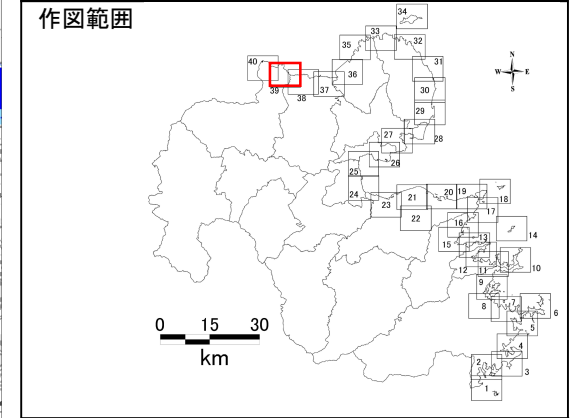
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300~400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

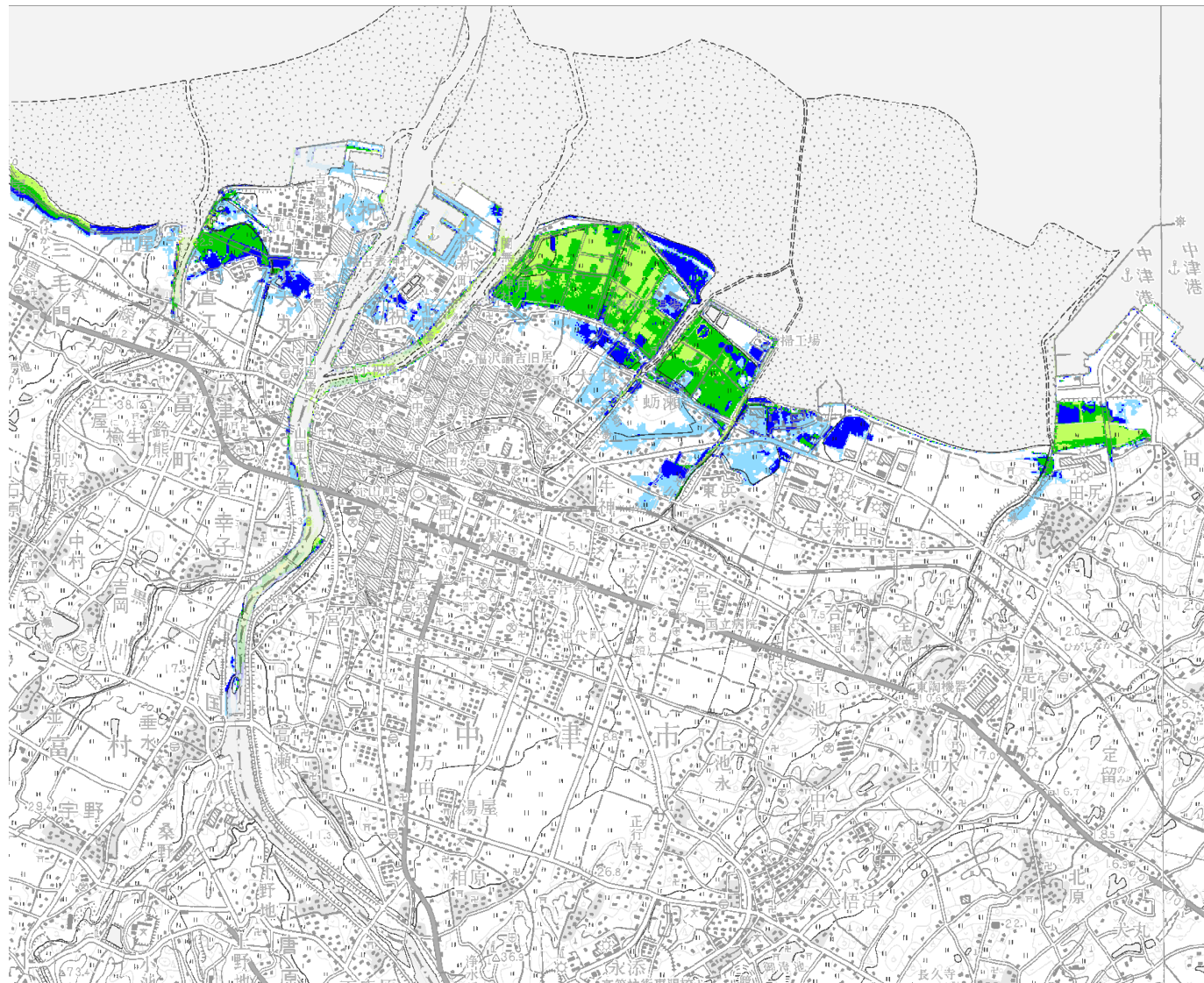
活断層名	発生確率		特記事項
	30年以内	100年以内	
別府湾-日出生断層帯(東部)	ほぼ0	ほぼ0~0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長巻後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	0.03~4	0.2~10	
周防灘断層群(主部)	2~4	7~10	—

<想定震源>:南海トラフの地震
 <初期潮位>:朔望平均満潮位
 <堤防条件>:堤防が機能しない



『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』

作図範囲:40



大分県 津波による浸水予測図
 実際の地震発生時には、この浸水予測図よりも広い範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

発生確率は、次のとおり(地震調査研究推進本部公表)

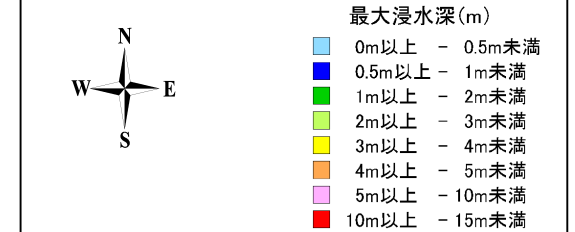
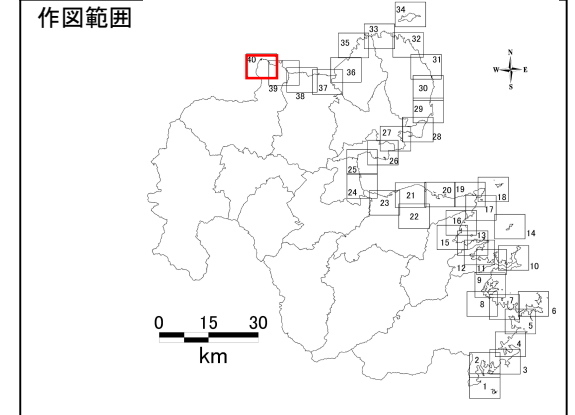
○南海トラフの海溝型地震

領域または地震名	発生確率(%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%程度	90%程度 もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300～400年と約700年の間隔で発生したと推定される。(直近は1707年の宝永地震)
南海地震	60%程度	90%程度	

○活断層型地震

活断層名	発生確率		特記事項	
	30年以内	100年以内		
別府湾-日出生断層帯(東部)	別府湾断層帯	ほぼ0	ほぼ0～0.005	別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯(東部)	別府地溝南縁断層帯	0.03～4	0.2～10	
周防灘断層群(主部)		2～4	7～10	

<想定震源>:南海トラフの地震
<初期潮位>:朔望平均満潮位
<堤防条件>:堤防が機能しない



『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平 24 情複、第 496 号)』